

風にWhistle

いい年でありますように 2005/12/31（土）

今年の干支の酉は「もう、けっこう」と言わんばかりに「お犬様」へバトンタッチだ。合併に明け暮れた年である。7市町村の合併は壊れたが、年が明ける来春の3月21日は二ツ井町と合併して新市「能代市」が誕生する。さまざまなことを経験した2005年であったが慈愛に満ちた「愛」でもって来年につなげたい。いい年でありますように。

大晦日の今晚も「なまはげ」が浅内集落を回る。番楽面が特徴で、男鹿半島の「観光なまはげ」とはちょっと違う。「鬼」の形相の面は見られず、武士や若女、翁などで古い面は十三面ある。

面に「山の神」が「なまはげ」の中でも最も重要視され、私が子供の頃、独特の迫力で家に入り込んでくると家の中に隠れていたのに見つかっては怖くて卒倒しそうなくらいに泣いた。「なまはげ」のそばで、にたっと笑って立っていた親の前で、「ゴメンナサイ！ 親の言うことなんでもきくってば！ 勉強すっから！」と、恐ろしさに手を合わせて「なまはげ」に「懺悔」させられた頃を思い出す。

「なまはげ」は今年一年の厄を払う。そして「ウオー」と行く年を告げる。

戦後60年の節目の年も今日で終わる。

わたしをスケープゴート「殺される」恐怖を感じ入っています 2005/12/30（金）

「能代の掲示板」の管理人さんへ。38／61 ページだからといって61 ページも大量に印刷することはありません。印刷範囲にページ指定してください。ちなみに「532」のあなたの書き込みの印刷は12月30日に14－15 ページに範囲指定をしたら、14／65 ページに一回で的中して印刷することが出来ました。

こんなこともご存じなくて重箱のすみっこをほじくり叩いて世間のさらし者にするのが掲示板や伝言板のやることなのですね。ほじくり叩くその場所を一つ一つ書き出すだけで、この欄の字数は尽きてしまうが、それよりも何も掲示板や伝言板は、こぞって私を叩きのめして殺して亡き者にする目的にあるのですね。あなたたちの狙い打ちにあって既に「殺される」恐怖を感じ入っています。自分を隠した卑怯な書き込みに殺されて死ぬのはご免こうむりたいが、心理的にはかなり滅入っておりデッドラインにある。

私が死んだらその灰はあなたの頭上に撒いて欲しいと、遺言にしたためましょう。

[533] **選挙戦では** 投稿者: 法螺貝 投稿日: 2005/12/27(Tue) 13:06 [\[返信\]](#)

選挙戦では見苦しいくらいの街宣車の数、そして聞き苦しいくらいの連呼の声は当たり前のことです。

まあ、あまり二枚目、美人とはいえないポスターも町中に氾濫する。

いわば選挙戦の前哨戦と思っていただければよろしいかと思います。
前から言っておりますように、来年の春予定されている市長選、市議選。
その事前運動です。

目標はずばり、創政会の疑惑議員三名と政和会の追従議員四名の落選を目指すものです。

小生は誹謗中傷(根拠の無い非難、攻撃)は好みませんが齒に衣を着せるのはもっと好みません。

そのための選挙運動は臆面も無く行います。

ただし公職選挙法に触れるものは致しません。

いわば、事実関係を論じ、明らかにする、あからさまにすることによって
市民の支持を剥ぎ取る目的で行っております。

伊藤議員の掲示板でも再々申し上げましたが、その政治姿勢、政治行動を改めない限り、

市民生活、市の将来と市民の幸福に害なす恐れのあるもの、議員は全力を挙げて再選を阻止する。

ターゲットは決まっております。

願わくば原田議員には惨めな惨敗を喫することによって市の将来のためのスケープゴートとならん事を、

それが今、政和会四議員、及び創政会三議員に出来る市民への最大の貢献です。

以上の理由により、

当面の見苦しき、また聞き苦しき投稿御容赦されたく存じます。

[532] **原田市議を応援す** 投稿者: 管理人 投稿日: 2005/12/27(Tue) 10:57 [\[返信\]](#)

仕事の合間にちょっと「原田市議」のHPに行ってみました。

22日の日記と称する(日付捏造らしいので)ところに「議会ウォッチャー氏」の書き込みが引用されておりました。

すごいですねえ。38/61ページだそうです。

この掲示板を印刷してくれていたんですね、61ページも。

とっても研究熱心な方だと尊敬しちゃいます。

でも、紙がもったいなくないでしょうか、それにインク代も。

この掲示板は1000件を越えると自動的に古い文から削除されますが、研究熱心な方の研究を妨げないよう、2000件まで増やすことにします。

2000件全部印刷したら200ページくらいになるかも。

これからも研究に邁進されることを応援しております。

正月の準備 2005/12/29 (木)

家に正月の花を生けた。簡素ではあるがお正月の祝賀膳の準備をする。何か、心が引き締まるのを覚える。実に何年ぶりだろうか。

吹雪の中、何処も彼処も買い物客で溢れていた。早すぎる寒波の襲来がたくさんの人をうろたえさせていた。

12月19日現在の電力の消費量は2765万4千キロワット時で、過去最高を更新していると聞いている。灯油は過去最高値で高騰し、野菜など生活に直結する商品は品不足の状態に通常より値段が跳ね上がっている。なますになる魚の材料も注文しているが入荷していないという。質素な手作りのおせち料理がなによりだ。

今年の漢字は「愛」 2005/12/28 (水)

「日本漢字能力検定協会」が発表した「今年の漢字」は明るい印象を持つ「愛」だという。わたしは「愛」は愛に満ちた世相からではないだろうと思う。むしろ慈愛をなくした時世ゆえの渴望であり、その連鎖を押しとどめたい願いを来る年にも広げたい。



厳寒の中のナナカマドの実

またしても悲しい事故が・・・ 2005/12/27 (火)

怖いものの四大要因に「地震、雷、火事、親父」。安心して身の安全を任せている乗り物事故も、人々を恐怖のどん底に突き落としている。原因はそれぞれ違うが、事故があるたびに二度と繰り返さないように努めるといっては同じような事故がおきる。

25日夜テレビニュースで飛び込んできた山形県庄内町のJR羽越線で秋多発新潟行きの特急いなほ14号の前より五両が脱線、うち三両が転覆した事故は、5人が死亡し30人あまりが怪我をした。

原因は「突風」が電車を突き上げたとなっているようであるが、気象情報をきちんと把握した運転管理に問題はなかったのだろうか。状況判断欠乏症から来る災いがこうも人の命までお粗末になってしまうのではやりきれない。

「変節した」と地元の住民を叩く心無い人たちはごく一部 2005/12/26（月）

午後 3 時から 12 月（第 2 回）能代市農業委員会議を開催。能代市・二ツ井町との合併を、あと 100 日きった二ツ井町農業委員会から委員相互間の交流を深めるため、会議を傍聴に来ていた。

農業委員定数の問題、農業委員による現地調査のあり方、農業委員会会議開催の会場の問題など、新市の合併後に行われる農業委員の選挙まで十分話し合いが出来る。

意見交換後の懇親会もまた、よかった。本音で語り合える。

能代産業廃棄物処理センターの現場視察に行った委員もあり、「よく頑張ってくれた」と難儀の労をねぎらい地元感謝してくださる方もいた。「変節した」と地元の住民を叩く心無い人たちはごく一部。しかしまた、そういう人たちの声・意見も忘れてはならないことも分かっている。

クリスマス・プレゼント 2005/12/25（日）



「サンタのおじさんはどこから入ってこれるかなあ」と心配しながら、枕もとの靴下には「サンタのおじさんへ」とプレゼントに欲しい品々をたどたどしく書いたお手紙を入れてベッドに入った。

今朝、眼がさめて「ばあさん見てみて！ サンタさんのプレゼントは私が欲しかった『たまごっち』だったよ」と、喜んでいる。

お父さんとお母さんは子育てのほかに、どうやら『たまごっち』も育てなきゃならなくなってしまったようだ。

クリスマス・プレゼントといえば、秋田県議会が辻久男議長の判断ミスで県民が喜ぶべきか迷う「どでかい贈り物」をした。

県は、破綻寸前の県住宅供給公社から南ケ丘の土地を買い取り、県営住宅 91 戸のほか、こども総合エリア（仮称）の建設計画を主張してきた。この用地取得によって 72 億円まで膨らんだ住宅公社の負債を軽減し、年度内に陥る資金ショートを回避できるとの説明である。

12 月定例会秋田県議会は一般会計補正予算案に対して、南ケ丘ニュータウンの兼営住宅建設用地費 117, 532 万円を削除した修正案、国際教養大学学生寮整備事業の地質調査費 263 万円、同整備事業に伴う 3, 304 万円の債務負担行為を除いた修正案が提出され、その

是非が焦点となっていた。

二つの修正案は起立採決の結果、いずれも賛成少数で否決され、原案は賛成多数で可決した。ところが実際は、原案に対して賛成 22、反対 22 の同数であったことが議会閉会後に分かった。起立者数を厳密に数えなかった採決のあり方に問題があって、結局、議長は誤りを認めて、結論は議決有効となった。責任がある議長は辞意を示唆した。

議事録が出来上がっていない今の段階では、審査の概要、過程を新聞などマスコミによる情報入手しか出来ないが、私は、この「どでかい贈り物」が拙速すぎる県当局提案に県議会が十分議論つくされた結果であるかどうか。なし崩し的に認めるようなことになっていないかどうか。不透明さにいささか疑問を持つのである。

こんなことだから議員の政務調査費のあり方は、検討していたがおそらく中途半端に終わっているんだろうな。



日本列島は今冬、12 月としては記録的な大雪。此处、能代山本地方も近年にない降雪となって、あっちこっちで住民が雪かきに追われている。融雪歩道だけは本領を発揮していた。

ゴメンナサイ。メモった未完の予定稿もしっかり載せてしまって 2005/12/25（日）

わたしの周りで開く掲示板や伝言版には、まるで脅迫まがいのそして自分を隠した卑怯な書き込みが多いのに驚くことが多い。大人の掲示板ではないと怒りを込めて 23 日から 24 日にかけて、最低私が心がけている掲示板の最低守るべき基本的なルールとマナーを書き上げた。

ところが、怒りの気持ちを落ち着かせるために、間をおいて思いついたことをメモったはずの未完の予定稿もろとも 2005/12/24（土）の午前中に一気にホームページに載せてしまっていた。自分でも知人から指摘される今日の朝まで気がつかなかった。ゴメンナサイ。

今年の私はどうだったかな？ 2005/12/26（月）

今日の予定を確認しようと手帳を開く。

午後3時から12月（第2回）能代市農業委員会議が開催される。能代市・二ツ井町との合併を、あと100日きった二ツ井町農業委員会から委員相互間の交流を深めるため会議の傍聴に来る予定と伺っている。

残り少なくなった今年の手帳のすみっこに、走り書きしたメモがみつかる。何処かの講演で聞いたどなたかのモットー（座右の銘）に、書き込んでいたのかもしれない。

他意（人？）を益す、孝（親孝行）を原点とし
口を慎んで、心を開く
眼（目標）を高く、頭を低く

年賀状を書きそびれて今年も・・・ 2005/12/25（日）

正月に近い12月最後の日曜日は版画で年賀状を作っていた頃を思い出す。平成3年12月の今頃、兄が撮ってきた能代産業廃棄物処理センターの「おかしな写真」を見せつけられてから一時の時間も暇もなく、年賀状を書きそびれてしまっている。

今日は、終わったばかりの12月議会の議案等資料の整理当に追われている。

最低守るべき基本的なルールとマナー 2005/12/24（土）

同僚議員が自分のもつ掲示板を削除した気持ちがよく分かる。彼なりに一生懸命答えていたが、答えれば答えるほど激しい書き込みに遭ったように感じていた。

わたしは掲示板の最低守るべき基本的なルールとマナーとして次のことを心がけるべきではないかと考える。

- ① 仲間の問題。ユーザーが集まる掲示板にすぐ質問したくなるのは人情だと思う。仲間を作り、その中での質問は許されるだろうが、仲間でない人に質問したりされたり、ましてや批判や中傷誹謗を受け付けることはしない。
- ② 掲示板に売られた喧嘩は買わない。相手の書き込みの削除を求めたり、応戦するような書き込みは一切やめて、相手の発言を放置する。挑発を目的にした書き込みも相手にせず、放置する。掲示板で喧嘩をしたり、弁解の書き込みはエスカレートとするばかりだからだ。
- ③ 掲示板に自分の個人情報を書き込まれているのを見つけた場合、内容を修正してもらうように書き込みをしたり、掲示板管理者に削除依頼はしない。当該の発言、書き込みのあるページを保存し、名誉毀損など悪質な場合の民事上の対応として弁護士に相談する。

でもやっぱりあまりにもいい加減で悪質なことを書き込まれると、即反応したくなる。黙ってはいられなくなるのも人の気持ちだから。

久しぶりに「能代の掲示板」を検索して開いたら・・・ 2005/12/23（金）

2005/12/14（水）に中田満氏が議場を持ち歩く「能代の掲示板」が気になっていたことと、2005/12/16（金）に匿名の方から電話があったことがきっかけで、昨日 22 日、ずいぶん久しぶりに「能代の掲示板」を検索して開いた。言いたい放題は変っていなかったが、「大憤慨」から「ほら貝」から「鞍馬天狗」から登場して独壇場となって、私と私の所属する会派とその同僚議員の中傷誹謗に集中していた 2005/7/25（月）以来だった。

私は自分自身が掲示板を否定する者だから、よそ様の掲示板を開くことは余りないが、当然誰のどなたの掲示板にも書き込みは一切しない。しかし、久しぶりに開いた「のしろの掲示板」には、自分の知識を披瀝するのはいいけれどそれを翳して自分と意見が合わないから考え方が違うからと私をターゲットに絞り、身に覚えのないことから何でもかんでも先鋭の矛先を私に向けてはけちょんばちょんに批判していた。12 月 12 日の「のしろの掲示板」には、私を含む数人の議員を「当選させてはならぬ」と、怨念を込めた書き込みがされているので紹介しよう。

[412] **低レベル能代市議会** 投稿者: 議会ウオッチャー 投稿日: 2005/12/12(Mon) 23:22 [返信]

東能代の大型店出店賛成、能代産廃問題解決費26億円で閉じ込め賛成の地元民と産廃議員、政治倫理審査のみみ消し賛成、市工事談合事件、みんな地下水脈で同じ流れだ。

今日は議会を傍聴してオレの予想したことを確認した。

法螺貝さんのカキコミも確信した。

原田、大倉、薩摩、伊藤は絶対に当選させてはならぬ。斉藤、武田、後藤は絶対に当選させてはならぬ。

「能代の掲示板」を議場に持ち込んで回し読みする議員 2005/12/22（木）

議会開催の度に、一日のうち何度も議場を出たり入ったりして廊下を歩く中田満議員に不快な思いをしていた。2005/12/14（水）午後 1 時からの会議再開 5 分前に食堂に現れた中田満議員が、食事をして 10 分遅れて議場に入ってきたとき、わたしは思わず少し後ろ斜めに座る中田満議員のだらしなさを軽蔑な眼で見ている。

そのとき、ゆらゆらさせながら手に持っていた A 4 サイズの紙を、隣の議席にいる畠山一男議員に「これ、読め！」といわんばかりに差し出した。ものの 2 分もしないうちにまた A 4 サイズの紙を抱えて議場を出て行き、会派の部屋につながる廊下をあるいていたのである。議場に持ち込んでいた A 4 サイズの紙は、「能代の掲示板」と大文字がはっきり見えた。

会務報告後のつきない話 2005/12/21（水）

今日晩方 5 時 30 分から自治会役員会を開催して会務報告をした。すし屋のとうさんが亡くなって皆、落ち込んでいた。転んで大怪我をして一命はとりとめた話、昨日元気だったのにたったいま入院した話、仕事がない話…。

幼い子どもや小学校低学年の子どもが受ける残虐な社会情勢などなど話は尽きない。

心構えを毅然とした大人の責任で地域の住民、命を大切を守っていこうとまとまった。

怒るだろうな 2005/12/20（火）

朝起きたらこれまたどっかりと雪が降り積もっていた。外に駐車していた車は雪だるまならぬ雪ぐるまになっていた。

私は今日までに提出する「能代市議会政治倫条例に関する会派の考え方」をまとめあげて、午前 11 時開催の 12 月議会最終日に臨む。

議会最終日は、各常任委員会に付託された案件に対する審査の経過の概要、結果を委員長が報告し、それに対する質疑、討論をして決する順序になる。

消防の広域化にかかわる 3 議案の総務・企画委員長の報告に対して、その場で畠亭一郎議員から手渡された質問書を共産党小林議員が 3 項目にわたって読み上げた。質問の代読だからその趣旨を理解していない小林議員は再質問をどうしていいか分からず、何度も畠議員に後ろを振り向いて助けを求めるが、質問書の手渡した張本人であることを他の議員に悟られたくないのか困っている小林議員を目の前にして「知らんぷり」している。結局残された二回の質問のチャンスをつぶして尻切りトンボで終わったのである。後で畠氏、畠山氏連合組みは「答弁漏れだ」と言って文句をつけていたが、じつにおかしな光景である。

次に反対討論に移った。小林議員はこれまでの経過と異なる事実を縷々述べた。

「議案提案されたのはいつだったかこれまでの議事録を見れば歴然としている。いかに日本共産党・小林議員が間違っているか、笑われるのがせきのヤマ。このままにしとけばいい!」と、吐き捨てるある議員。人がよすぎる?議会運営委員長は「このまま議事録に残したら、小林さんが笑われる」と、問題の部分を削除したらどうかと懸命になっているそばにモジョ告きマジョが衛星通信記者如く情報収集に走り回って纏わりついてくるといふ。「かまうな! ばかくせえがら」のこえ。

これが小林でなく私だったら「ただいまの発言は事実と違う!」と即、畠貞一労使や柳谷氏に議事進行の動議をかけられているところだ。

相場元市議会議員だったら怒るだろうな「こら! 小林 何をしとるんじゃ!」と。

消防の広域化にかかわる 3 議案は、委員長の報告どおり継続審査となって次回持越しとなった。

議会が終了したこともあって会派で反省会をしながら食事する。午後 8 時近く家に帰り

ついたら、知人から電話で誘われてカラオケに行く。韓国ブームにしっかりとのりのり乗っている。

「おれ、ちっともわかんね」という夫を前に音程は外れていないすべて韓国語で歌ってはよろこぶ。そこで私はあの騒がしい音の中で聞いた。「意味分かって歌ってるの?」「聞くだけ野暮よ! えっちゃん。わかんないけど楽しいっ!」

知人は、私の好きな大塚博堂の「めぐり合い紡いで」を歌い、わたしは「ダスティン・ホフマンになれなかったよ」をハミングして、やっと日本語になった。今日の出来事をパソコンに打ち込んで時計を見ると午前2時を回っていた。

明日もきっと荒れるのだろうか 2005/12/19 (月)

昨日今日、今年の冬一番の寒気が流入し、県内各地大荒れのように。午後3時から明日開催される能代市議会12月議会最終日に向けての準備をする。提案議案の採決をめぐって明日の本会議も荒れるのだろうか。

議案は議決してなんぼの(価値ある)ものである。

「提案議案をぜひとも認めて欲しい」と言う、提案者市長の気持ちはさらさら伝わってこない。むしろ、市長は議会と議論がかみ合わないことを「批判するのは勝手に私には中田満議員が率いる強力な支持者がついている」と、言わんばかり。

豊沢与党を自認する中田満率いる連合5人プラスαも少数派でありながら強気で他の議員を批判することはあっても豊沢氏を助けるための行動はしない。

私はこのイエスマンたちが議会の中では絶対的多数で且つ他の議員や市民の多くから全幅信頼のある豊沢与党組みだったら何も言うことはないが、そうではない所に危惧するのである。

会に行きたい 2005/12/18 (日)

大阪万博が開催されていた頃、わたしは大阪で洋裁の修行をしていた。日曜日になると歩く歩道に乗るために何時間も待ち、また何時間も待って各パビリオンを回った。歌う広場で肺活力で歌う布施明と喉で歌う沢田研二の音声の力量がダントツ違うことを知っては勝手に下手と上手の値踏みをしたりして…。

万博が終わって画家・岡本太郎氏の「太陽の塔」がそこに残ったのは分かっていたが、大きな壁になっていた部分が取り壊されて無くなっていた。今日新聞に、数奇の旅をたどり実に36年ぶりにメキシコから日本に帰ってきた「明日の神話」は復元されて来年7月ー8月、東京汐留の日本テレビで展示されることが分かった。会に行きたい。

岡本太郎氏の巨大壁画は、洋服仕立て業が「畳の上の土方仕事」と例えられるように、わたしの辛い洋裁修行の日々に、元気とやる気を起こしてくれた思い出があるから。



写真は秋田魁新報から

「まちづくり」に苦慮している市民 2005/12/17（土）

某地区に能代市企画部から投げかけられた「まちづくり」の宿題に苦慮している複数の自治会があった。「民間の力を生かすことが大切。住民手作りのまちづくりを支援する」と、行政主導のビジョンを示すのではなく、地域住民と対等の立場で一体と働く協働のまちづくりを目指すその言葉の響きに聞こえはいいが、まちづくりに妙案のない豊沢市政に政策丸投げのあおりを受けた市民が困っていた。

それは、芥子粒の呟きです 2005/12/16（金）

信太氏のホームページと「能代の掲示板」を開いたという方から電話が来た。ずいぶんひどいことを書いてこの内容は選挙妨害ではないか、名誉毀損ではないかという。なんだったら、かなり昔の分も含めてコピーしてあるので送りたいということだった。

確かに事実でないことをでっち上げて書きなぐられるのは不愉快である。でも、いまさら「違う」と言って、ああ、そうですかと引き下がるような人でないことぐらいは熟知している。逆恨みにパワーアップされるほうがもっと始末が悪く体力の消耗につながる。

福沢諭吉は、人間をいろいろなものにたとえている。塵、あるいは埃。ボウフラ、ウジムシ、アリなど等。昔から言い伝えられてきた、人を虫に見立て、はかなさから露にたとえられる「一寸の虫にも五分の魂」という俚諺もある。

「議員という名のもとに自分の利益のみを優先する人たちを、芥子粒のようなものとみている。相手にすることはない。」と、答えた。

思いやり予算・順序が逆でないか 2005/12/15（木）

能代市議会各常任委員会を開催した。私が所属する文教・民生常任委員会は順調に審査が進んで会を閉じた。

総務・企画常任委員会には消防の広域化にかかわる議案を含め、合併に伴う二ツ井町住所表示支援負担金の予算計上など難題が付託されて審議が続いている。

消防の広域化については、どうやらこれまでの全員協議会や昨日本会議での市当局説明と異なる答弁に不満が続出し、広域化の必要性は認められるものの慎重な審議が必要とする委員と、即賛成の委員とに意見が別れているようだ。

一方、二ツ井町住所表示支援負担金についても、昨日の本会議に引き続き行政負担のあり方や実施時期などをめぐって論議されているようだ。委員会の予算審議が賛否確認を終わろうとしているときになって当局から「二ツ井町は能代市の負担金を予算計上している。本日委員会採決して明日の本会議で決まる」と、切り出した。

二ツ井町住所表示支援負担金は、能代市議会の委員会での予算審議が終わらないどころか本会議で議決も得ないうちに、二ツ井町が能代市から「もらう金」を予算計上、委員会採決、本会議を通るという。先に外堀を固めたのでいまさら予算審議して「反対は無用」と言い出したようなものだ。

この予算に難色を示していた委員は多数であったと思う。しかし、二ツ井町との合併を控え本予算から二ツ井町住所表示支援負担金のみを否決するには両市町の信頼関係を損なうことを懸念して致し方なく「賛成」となったようだ。

いくら思いやりの予算とはいえ、順序が逆だ。あまりにも議会軽視ではないか。

消防は広域化しようがしまいが「住民の安全を守るため」にある 2005/12/14（水）

質疑と応答は「いかがなものか」を解くためにする。

12月議会補正予算案、消防広域化関連議案などが上程され質疑を行う。消防広域化についてはこれまで議決権のない議会全員協議会で話し合われてきた経緯があり、今回がはじめて議案として提出されてきた。あらためて統合のメリットや、給与格差の平準化、指揮命令システムを含む人事交流などについて質疑する。市長は部長クラスの答弁に聴きほれているのか顔を見上げながら感心してぼわーんと聴いている。

「なぜ、いま、消防の広域化が必要か」と私が質したのに対し「当局は、なぜ、『住民の安全を守るため』といえないのか!」と、松谷議員は、ぼわーんとして聴いている市長にあてつけて「オレが答えてやる」と言い出した。

消防は広域化しようがしまいが「住民の安全を守るため」にある。決まり文句だ。

つづいて二ツ井町住所表示支援負担金 600 万円に質疑が移った。合併に伴い二ツ井町の個人・法人等を対象に住所の表示変更に合わせ印刷物や看板などを作り直す場合、掛かった経費のうち 5 万円を上限にした 2 分の 1 を能代市が負担し、二ツ井町が（能代市からもらったお金を）町民に補助する内容である。

合併にあたり能代市は生涯二ツ井町に配慮し、気配りを持ち続ける決意と覚悟の下に「能代市」となったからと、提案理由を述べた。その上で、二ツ井町は誇りと愛着のある名称を捨てざるを得なくなり、費用負担も生じるとした。丸岡町長も「そこまでは考えていなかったが能代がそうしてくれんだったら遠慮することはない」といっている。

「吸収合併でない、対等合併だったべ？」能代市民にいわれると私は、合併前に能代市が支出するのはいかなものかと思うのである。

豊沢市政の「時価」に、どん詰まりのはかなさを見た 2005/12/13（火）

昨日 11 日に 6 人、今日 13 日に 5 人が豊沢市長に一般質問をした。
わたしは、一般質問を続ける緊張感を当選してから一度も休まずにここまで来たが、こんなに「気」が乗らない一般質問は初めてだった。

7 日に市長が行政報告した中身のない総花的な政策課題を取り上げて質問するには当然、その答えにも中身がないのはわかっていたが、昨日から今日、何べん聞いただろうか、壊れたテープレコーダーの繰り返しで帰ってくる同じ言葉を。

「誰でも・どこでも・安全で安心して暮らせるまちづくり」が必要だから郊外型大型店の進出に反対し、一軒の家の建築の対応にも農地転用につながる農業振興地域整備計画変更を拒否する。

市街地をどう活性化するかと質すと、コンパクトなまちにして「誰でも・どこでも・安全で安心して暮らせるまちづくり」目指すという。

それじゃ、どういったコンパクトシティを目指すのかとたたみかけると「誰でも・どこでも・安全で安心して暮らせるまちづくり」と、オウム返し。

とうとう、松谷議員が痺れを切らしてこういった。枝葉は幹の性質に従う。幹がないのに枝葉が育つわけがないと引用して、「市長には『こういうまちづくりを』という幹がない」とぼささり。

これに市長は声の調子を上げて答弁ではなく反論に出た。からだを突き出し大手を振ってこう言った。「松谷議員と私は考え方が違う！民間の力を生かすことが大切な時代が変わってきている。松谷議員の考え方は古い、昔の人の考えだ！」と。

顔から首が赤く高潮して興奮した様子に、当の松谷議員はこれ以上のエネルギーの消耗をためらったのか、あきれ返った顔して笑っていた。

傍聴席には豊沢市政を支えるもう一人の市民がいた。どう、感じ取って帰っただろうか。

私は豊沢市政の「時価」に、どん詰まりのはかなさを見た。

相手にならないが、一言… 2005/12/13（火）

今回の一般質問でも能代産廃の現場内処理を「原則」としていると発言していた。昨年 9 月議会で私に国が現場内処理を原則としたのではない、現場内処理を基本としたのは秋田県だと指摘されたもんだから、あいも変わらず「原則」論にこだわっているらしい。

国が現場内処理を原則としているのなら、あなたが視察してきた香川県豊島ではどうして現場内処理をしないで島外の青島で処理しているの？ このことを考えただけでも現場内処理が国の「原則」でないことが分かるでしょ。

能代産廃問題について、自分が人の話を又聞きで知っていると思っていることと、その

ことを本当に知っているということの間には、しばしば、大きな隔たりがあるようね。

あなたは今、事を学ばば学ぶほど、自分の無知を教えられているのではないだろうか。だから、「自分こそ万能、何でもデキル」と思っている人の程度は、それほどでないのである。

あなたの知識学をお披露目する再質問がそれを象徴していた。市長が「理解できない」と答弁するほどメッチャクチャだった。それでも満顔して喜ぶ？ 分からないね。

思わず、本心を言ってしまった 2005/12/12（月）

能のせりふに「げに理や露の身は、電光石火朝露石の火の…」は、はかなさを列挙している。

私は、現職が議会本会議で市長選出馬を表明した過去の場面を思い起こしていた。大概はこう言う。「皆さまのご協力のもと、市政発展に努力して来た。厳しい社会情勢の中、取り組むべき課題が山積しており、市長選に出馬してその責任を果たすべく最善を尽くす」と、およそ 3 分にも満たないがその意思是聴く相手に鮮明に刻まれるように表明する。すると、議場でそれを聴く与野党を問わずの議員たちは一瞬にして「よしっ、こちらも頑張るぞ!」と言わんばかりの奮起を持つ動きとなるのである。

ところが今日の豊沢市長は、職員に記述させた「あれもやりました、これもやりました」を列挙しておよそ 20 分? をかけた大演説で新市の市長選出馬を表明した。能代市議会議員連合 5 人組にプラス一人、ふたり、三人のよろこび組みだけは満額の顔をしていたが、わたしは「げんなり」として聴いていた。特に能代産廃のくだりでは「あんたは何もしていない!」と喉のそこまで声が出そうだった。

そこで一般質問の冒頭でわたしは思わず本日の本音をアドリブで吐いてしまった。「自我自賛して新市の市長選へ立候補を表明するのなるほどナと聴いていたが、市長の資質となるといささかいかかなものかなと…思ってしまう」と。

そんなこといわないで。いすの上にも 3 年座ってます 2005/12/11（日）

明日豊沢さんが市長選に出馬表明する新聞記事を読んでそのたんびに気持ちをイライラしていたら貴方が体を悪くしますよ。二本足で肝っ玉の重心をしっかり支えてください! 諺の中に「石の上にも 3 年」ておありでしょ。こんなに出来ない人だとはおもわなんだと貴方はおっしゃいますけれど、(聞くとところによれば) 会社に勤めても 3 ヶ月ともたなかったという豊沢さんが、塾の先生から市長のいすに座って 2 年と 8 ヶ月約 3 年になりました。

子供だけを相手にした一匹狼が慣れない組織の群れの中で、合併やら、消防の広域化やら、突如目覚めた環境問題を産業に起こそうとするやらで、八方塞の問題が山積している中によく辛抱してここまで着ました。あなたのように「出来ない、あんなに出来ないとはおもわなんだ」と矢面に立たされながらも、人のはなしなら聴く耳を持たない豊沢さんだ

からこそ、よく踏ん張って市長選に出られるのだと思ってください。明日、畠低一浪さんの質問に答える形で新市の市長選出馬を表明するでしょう。

それよりもそちらの内部分裂は収まりましたか。読み込み済みでしょうが、何があっても「現職の強み」がありますから当選すること間違いなし！大丈夫。

それに、相手方候補者しだいにもよりますが、来春の選挙の頃には能代産廃センターの詰まったドラム缶のふたも開いて後方支援するでしょう。

結局、一般質問の原稿は思うようにはかどらず…。ひとしきり話を聞いたあとぶらりと買い物に出かける。ストレスが買物依存症になったかなと思うほど定価から 3 割引ではあるが株と葉のしっかりしたシクラメンの花を大量に買ってきた。

道路特定財源の一般財源化は受け入れがたい 2005/12/10（土）

2005/11/5（土）に、道路特定財源の行方をこの欄で述べた。使い方やその規模の具体化は、2007 年度以降に先送りされたが、道路特定財源の政府・与党は一般財源化する基本方針を決定したようだ。税率を維持したまま真に必要な道路は計画的に整備しようとしている。税率については、環境対策や高速道路料金のあり方、余る財源の税率の引き下げやあるいは還元する方法などなど、道路利用者や納税者の納得が得ないままになって決めるのは乱暴なはなしで、これ以上の高速道路は要らない私でも、地方の遅れた一般道路の整備状況を見るには受け入れがたい。

女性農業委員の減少 2005/12/9（金）

昨年度と比べ今年の総会はおじんまりとした会場となっていた。
今日、秋田市内において秋田県女性農業委員協議会第 3 回総会が開催された。7 月の農業委員改選前 40 名在籍していた女性農業委員は市町村合併に伴う事情もあって 27 名になっていた。一人もいない市町村もあるという。
役員改選で、各地区からの推薦でわたしは選挙区を勝ち抜いてきた上小阿仁村の斉藤委員を薦めた。会長代理になったがしっかりしている。

過去 1 年間に自営農業に 60 日以上従事している女性就業者が責任を持って担当している部門のある農家は 78.6%となっている。女性は頑張っているのだ。

午後から岩手県紫波町で養豚、水田、畑を経営する熊谷富美子氏の講演を聞く。熊谷氏もまた夫と、息子と家族協定を結ぶ認定農業者である。堆肥及び水肥の利活用から生産者と消費者の交流、レストランの経営まで役割分担をしながら女性の感性でなければ出来ない営農を確立していた。活動と行動は原点であるともいっていた。

さて今日は何の日？ 2005/12/8（木）

「12 月 8 日」がきた。63 年前のこの日、日本海軍がハワイの真珠湾攻撃を開始し、太平洋戦争の幕を開いた。日本は敗れ、そこから今日がある戦後が始まる。戦後 60 年「今日は

何の日？」と聞かれて答えられる人はどれだけいるだろうかと、思う。真珠湾攻撃の真相をあまり知らないわたしも、テレビの放映に「あぁ、そうだった！」の一人である。

そのうち世代が移って「新高山ってどこ？」と言われないように、語り継ぎをしっかりと育てなければならない。戦後 60 年の暦も間もなく終わる。

行政報告は市長選出馬表明への下準備 2005/12/7（水）

今日から能代市議会 12 月議会を開催した。後援会の内部の分裂に収拾がつかなかったのか、あるいは 12 日に影の豊沢市長・中田満氏が率いる畠低一労使を使って能代市議会一般質問で「やらせ表明」するのか豊沢氏は新市の市長選への出馬表明はしなかった。

が、さながらにして今日の市長は次期市長選への準備のために用意された総花的な政策課題を行政報告した。議場を出る議員の顔色は、お互いにみな冴えなく見えた。与党連合よろこび組みは別として。

明日正午まで一般質問の通告をしなければならないのに、豊沢さんが掲げる循環型社会はおがしくねがい？から始まって、どうして中田満のいいなりなのかと、ああだ、こうだと各自持論を展開する場に夜遅くまで付き合ってしまう。確かにおがしナ関係だと匂いはぶんぶんする…。自分の気持ちをどこへ持って言ったらいいのやら、豊沢さんをこれまで応援してきた人たちがイライラしているのだけはよく分かる。

なぜ、イライラするのだろうか？ 其処のところを整理しなくちゃ答えが出ないのはいかしら。私のイライラする気持ちは今はもう、ない。それは、豊沢市長に向かうスタンスをきっぱりと「逆明利君に徹して監視する。それが責任ある者の支援のあり方」と決めたから。

米代亭杉丸さま 2005/12/6（火）

地元紙に掲載されている米代亭杉丸さまの 11 月「時事なぞかけ」が私の眼にとまりました。

「大型店進出」とかけて「能代産廃問題」と解きます

そのところは「こうがいが気になります」

いよいよ、能代産廃処理センターのパンドラの箱を開けます。ギリシャ神話のように慌てて蓋をして、災いだけを残して希望を失うことはいたしません。

大丈夫です。監視を続け、そのつどご報告をいたします。解決するまで鬼になると決めたわたしの信念は変わりません。

それよりも、米代亭杉丸さまがつぶやく「大型店進出」の「郊外」のほうが気になります。

「今は出るとも出ないともー」 市長のコメントになんで私が… 2005/12/5（月）

豊沢能代市長は 30 日の記者会見で「今は出るとも出ないともー」「17 年中に判断したい」と新市の市長選へコメントした。「出るか出ないかは年内に決めるって本当？」

そしてまだまだ延と続く。「いつものことだ。自分では決めれないことをもったいぶった様にして時をじらして私らがお願いするまで待たせるのだ。そして豊沢さんはこう言うよ。出るには家族の反対もあり躊躇したが、皆さんの強い要請があって出馬することにしたと。いかにも推したみなさんが頑張って私を当選させるようにと、責任をかぶせようとするんだよ。そいでまた落ちると、能代市民は馬鹿だ！と言うきまり文句だよな！」

応援してきた人（今でも応援しているのだと思う）の言葉にまったくわたしも同じ思いである。でもそんなにまくし立てて私に怒っても困ります。

ご心配なく。豊沢さんは新市の市長選に必ず出ます。豊沢さんのような強い図太さがなければ市長職はつとまらない、出来ないのです。

能代市議会議員連合 5 人組にプラス一人、ふたり、三人の絶大なる信頼の絆が豊沢さんを支えるでしょうから、そんなにあなたが思うような心配は要らないのではないかしら。結局なんだかんだと言いながらもあなたは豊沢市長の動向が気になるのですね。本人に直接言ってあげてください。聴く耳は持たないと思うけど…。

ところであなたは能代市議会の議会傍聴においでになったことがありますか。7 日午前 10 時から、能代市議会 12 月議会開催します。豊沢市長の市政報告があります。傍聴に来てください。

クリスマスツリーを飾る 2005/12/4（日）

今朝起きてみると、地面が真っ白になって雪が積もっていた。



デザイン・製作 原田悦子（1983 年）

我が家では、暮れの大掃除はやらない。あまり寒くならない小春日和の 10 月か 11 月のうちに大掛かりにやってしまう。

今年は「散らかす私」がいないうちの 10 月中旬の屋久島に行っている間を利用して終わってしまった。残っているのは「散らかす私」の部分だけだ。

どうしよう！と言いながら今日は、孫と一緒に部屋いっぱい散らかしてクリスマスを飾る。

社会の変質を感じる。これは大人の問題ではないか 2005/12/3（土）

あの事件で時計の針が止まった。今でも「ただいま！」と元気に子どもが帰ってくるような気がする。奈良県に住む昨年同じく事件に巻き込まれ小学校 1 年生の女の子の被害者の両親のコメントがまだ胸に詰まる。

高校一年の女性徒が母親に劇物を飲ませて衰弱するその様子を観察したり、高校一年の男子少年が同学年の少女を包丁で殺害し、広島でもそして栃木でも小学校一年の女の子が下校途中で痛々しく命を奪われている。捜査を尽くして究明して欲しいと思うが、私は「まさかこんなことが」の続発に社会の変質を感じる。そしてこれは大人の問題ではないのかと。

懸念していること「高齢者の医療費負担」 2005/12/2（金）

能代市の国民健康被保険者の診療費は一ヶ月で約 5 億 8 千万円に上がることが市の国保疾病統計で分かった。5 億円台は 5 年連続。70 歳以上の医療費の伸びがおもな要因で、診療費全体の 58.3%を占めている。

先だって、とある病院に出かけた。「あと何時間待てばいいがイ？ ほかの病院にもいがねばねえが、ここの薬っこだばまだあるがら月曜日にまだ来るべ」と、帰るおじさんがいた。これはこれでちょっと問題アリかなと思ったけれど、このほどまとまった厚生労働省の医療制度改革（案）によると来年度からは高齢者にも応分の負担を求めている。

たとえば窓口負担は 65－69 歳は現行の三割に、75 歳以上も一割に据え置いたが、現役並みの所得がある 70 歳以上で二割から三割に引き上げ、おまけに 70 歳以上の長期入院患者からは食費と居住費の自己負担となる。さらに 2007 年度には 75 歳以上の人が新たに加入する高齢者医療制度を創設して一割負担。2008 年度からは一般的な所得の人も 70－74 歳は原則一割から二割に引き上げられる。

この案には、生活習慣病を予防することによって、患者の負担増を避けるという狙いもあるが、全体として高齢者の負担引き上げに重点を置く内容となっている。これでは高齢者が出費を抑えるために受診を控えて「我慢」してしまう恐れがある。先の衆議院選挙で自民党のキャッチコピーは「改革を止めるな」であったが、これでもって改革なんだろうか？ 「改革」の方向性について国会での徹底した論議を求めたい。それは何よりも高齢者の不安をなくす医療であって欲しいから。

商工会議所の本来の仕事は？ 2005/12/1（木）

いやはや、月日の経つのが早い。壁に月ごとのカレンダー 12 月のが一枚だけ残った。

昨日、地元紙のトップ記事に能代商工会議所の人事問題が大きく掲載されている。私は能代商工会議所の事情は分からないが、いわばくすぶり続ける内紛を、能代商工会議所議員総会議事にしてしまった商工会議所会頭の指揮違いの責任ではないのか。

木都能代に衝撃の走った張天井板大手メーカー、オータカランバー（元の大高銘木）が秋田地裁に民事再生手続きに入っている。中小、零細企業が多いこの能代。苦しい中で努力する経営者も多いが、大方がこの不況に遭いいでいるこの世をどこ吹く風で内輪のお粗末を表沙汰にしている場合ではないのではないか？

こんな不満を持っている能代商工会議所会員がいる。「商工会議所の本来の仕事とは一体何だ！ 市の企画に提言するナとは言わないが、最近の能代商工会議所はまるで能代市の第二企画室のようになってきている。」

わたしもその兆候を懸念していた一人である。

建て直しを祈る 2005/11/30（水）

あの会社とこの会社と、もう一つあそこの会社と経営が難しくなっていると伝わっていた。その一つにあった張天井板の大手メーカー、オータカランバーが秋田地裁に民事再生法を申請したニュースが朝早くに飛び込んできた。私の年代では「大高銘木」で通じる。懸命に努力していただろうが地域経済界に与える影響は大きい。再建計画の中で従業員の削減もあろう。操業を継続して一日も早く経営建て直しが出来ることを祈る。

生活保護費削減の見送りは評価すれども・・・ 2005/11/30（水）

地方の頑張りは生活保護費の削減を阻止することが出来た。それはそれで評価できるが、児童扶養手当が削減の対象となったり、義務教育費が国の負担率引き下げにとどまるなど、地方に裁量権の余地ない部分に不満は残る。国は他にもっと歳出を抑えるものがあるではないか？

責任をどこにあるか、ばば抜きをしている場合じゃない！ 2005/11/29（火）

いやはや夜遅くにテレビニュースを聞いていて驚いた。耐震強度偽造マンション問題で衆議院国土交通委員会で参考人の質疑があった。証人喚問ではないので、いくら嘘を言っても罰則はない。それにしても反省を述べて自分の利とする意見から弁明、責任転嫁、爆弾発言でまくし立てるあたりは、手が震えて署名が出来ない国会議員より立派だ。構造上の違反を見抜けなかった自治体もある。確認検査機関が確認していなかったのだから監督権限を使うことにも落ち度がある。

責任をどこにあるか、ばば抜きをしている場合じゃない。 まず、そこに住んでいる人たちにやらなきゃならないことがあるでしょ！

隠れ報酬・県議会議員政務調査費に思う 2005/11/28（月）

今朝の県内紙に県議の海外視察に関する記事が掲載されている。

地域経済が低迷している中、議員の報酬・期末手当引き上げにさえ県民市民の理解が得られない社会情勢と、隠れた報酬といわれる政務調査費議員一人当たり年間 3,000,000 円をどのように考えているのだろうか。

中田潤県議会議員の平成 16 年度政務調査費収支報告書の一部

支 出 内 訳 書		議員用
項 目	内 容	
調査研究費	① 県内調査費 高速道路料金等 (9,780円)	(263,625円)
	② 国内政務調査費 1/2 他2件東京運賃 (87,750円)	
	* 宿泊費 (46,345円)	
	③ 海外政務調査費 2/20 中国大連運賃・宿泊費 (119,750円)	
研 修 費	環境基幹産業創出フォーラム龍代 シンポジウム他参加費等	(71,440円)
会 議 費	会議用弁当代等	(30,000円)
資料作成費	会議資料コピー代	(15,120円)
資料購入費	書籍購入費 39,802円	(146,770円)
	新聞購読料 (朝日新聞 36,084円 読売新聞 36,084円 北羽新聞 25,200円 LAさん系紙 9,600円) 106,968円	
広 報 費	ホームページ等による県政だより作成費	(803,250円)
事務所費	通信費・電話代等	(24,852円)
事 務 費	備品購入費 (デジタルカメラ他) (33,804円)	(64,943円)
	事務用品購入費 (封筒・消耗品等) (31,139円)	
人 件 費	事務補助資金 60,000円/月×12ヶ月 = 720,000円	(1,580,000円)
	政務調査補助運転手 5,000円/日×76日×1人 = 380,000円	
	政務調査補助事務員 40,000円/月×12ヶ月 = 480,000円	

(注) 内容欄には、主な事項とそれぞれの事項に対応する金額を記載すること。

私は毎年閲覧あるいはコピーで情報開示を利用しているが、いい加減さにあきれ返っている。領収書なし、報告書なし、それが何年間もちーとも変わっていない。

秋田県議会の議員に支払われる政務調査費は議員一人当たり年間 3,000,000 円だ。上限 1,000,000 円を海外視察につかう議員はかなりいる。韓国、中国、欧州など等。それどころか行き先も記入されていない海外航空運賃、旅費になんぼとだけの議員もいる。資料購入費は新聞購読料からデジタルカメラの購入あり、県政だより配布人夫賃あり、議会出席のための高速料金を含めた交通費あり。面白いほど何でもありだが領収書がない政務調査費は単に 3,000,000 円を消化した帳尻合わせになっている。

これがきちんと視察の成果を報告書にまとめるなどしなければ、政治家として責任を果たしていることにはならないのではないか。その制度をまずつくるべきだ。

議会政務調査費で子どもの学資費を賄ったという議員の話も聞くくらいだから。

「痩せる思い」して 2005/11/27（日）

アレルギー用の薬は、飲むと鼻水が止まるよりも「眠くなる」に効果観面。鼻をグシュグシュさせながらも、少し身の回りを整理しようとしたが…。ゴミ箱いっぱいになり紙ためて、とろとろとねむりました。

夜光虫は夜中になってごそごそ。パソコン開いて仕事をしようかなって、戸棚の中を覗いて、冷蔵庫の残り物を…。ああ、肥りたくない！と、思うことだけは「痩せる思い」して叫んでいるのです。

バイオリサイクル固形燃料(RPF) 製造事業 2005/11/26（土）

金曜日の夕方、急に鼻がむず痒くなって鼻水は止まることを知らない。おまけに目が痒い。それで今日午前中一番に耳鼻科に行った。いまごろ工業団地の枯れたブタクサ等のアレルギーに遭ったのだろうか。

私は昨日金曜日、今年の春から会社立ち上げの話があったこの会社の計画事業所である工業団地を視て廻った。事業者は株式会社 資源化システム秋田。取締役には市長の第一支援者M氏と中田満議員の長男を含む 8 名で構成し、3 月に設立した。が、6 月には既に代表取締役が交代して 7 名となっていた。(7 月末の登記簿謄本で)

7 月には、能代保健所と事前協議が行われているという情報と、内陸団地の借受場所が頓挫し、汚泥調査費を 6 月議会で認められなかったこと等から代表取締役が変わり事前協議は取り下げたという情報が入り乱れていた。と同時にこの会社は産業廃棄物である廃油など取り扱う処理業者であり、第二の能代産廃ではないかとか、市長と議員の倫理にかかわる問題があるのではないかとか、設立会社の経営事態が既に危ない！とか、早くから調査するよう忠告してくる者がいた。

昨年からさまざまな環境フォーラムが催しされてきた。この会社の下地準備をしてきている。中田潤県議会議員の平成 16 年度の政務調査費収支報告書には、研修費として環境基

幹産業創出フォーラム能代シンポジウム他参加費等 71, 440 円が計上されていた。



株式会社 資源化システム秋田の事業の開始は平成 17 年 11 月の予定だったようだが、計画事業所となっている工業団地予定地は荒地のままだった。もともと県は工業団地の運営方針として「産廃施設」を持ち込まないことになっているのではなかったかな？ でも環境産業リサイクルだと名目を変えるとそれはそれで通るからね。周辺の住民同意取り付けに某市議会議員が走り回っているという話も聞こえる。

やれやれ 2005/11/25（金）

市は、能代市議会環境産業委員会に秋田県がこのほど公表した能代産業廃棄物処理センター処分場の非破壊調査の結果報告と今後の対応について報告をした。

これまで能代産廃問題にはまったく関心を示さないできた能代市議会議員のスタンスがある。それでも最近、能代産廃問題にかなり関心がありとお見受けする委員もいるようになって、何かしらいい意見が出るのだろうかとかと委員長に願い出て後ろにちょこんと座って聴いていた。

今後の対応について「熔融炉を設置して再稼動」を持論とする委員は、ボーリングの角度についてなぜ傾斜度でなく垂直なのかと質問していたようである。答える当局側も県の方針を伝えるよりないようだ。

わたしには、能代産廃問題に関連してもっと重要なことを「能代市」に訊きたいことがいっぱいあるんだけどなあ。と、能代産廃問題を質問する共産党の相場さんを懐かしく思い出してしまった。

あれ、あれ？ 2005/11/24（木）

今日の臨時議会は、人事院勧告（国家公務員の給与改定）に準じた一般職員の給与は実質的に引き下げ、特別職（市長等）の給与は引き上げ、教育長の給与は引き上げ、議会の議員報酬・費用弁償は引き上げに関する条例の一部改正である。

地域経済が低迷している中、議員の期末手当引き上げは市民の理解が得られないこと、

また今回の勧告は結果的には一般職員の給与の引き下げになっていることに配慮すれば、議員の期末手当を引き上げることはできない」等として、能代市議会は全会一致で条例を修正して可決し、議員に関する部分は議員自ら引き上げを辞退した。

共産党は恒例になっている「小泉構造改革の元で住民サービスの切り下げ、民間の賃下げ競争を加速させる」と一般職員の給与は実質的に引き下げられる部分に対して市長提案は認められずと反対討論をした。また特別職（市長等）の給与及び教育長の給与引き上げについても「地域経済が疲弊している中、市民が納得できるものではない」と反対討論をした。

市長与党連合 5 人は、市長提案 4 議案全部に討論もなく反対した。結果として共産党の反対討論に便乗したことになる。正面に座る市長は「はぁ？」としていた。

わたしは、議員に関する部分は議員自ら引き上げを辞退することに賛成したが、一般職員の実質的給与の引き下げ、特別職、教育長の引き上げの部分は共産党の言うとおりに認めがたくも、さりとて人事院勧告「ひとの身分の保障」に関することであることから認めざるを得ないと判断した。

市長給与の引き下げを公約した市長が自ら、引き上げを辞退する修正条例でも準備してきたら、さすが！と少しは豊沢さんを見直していたかも…。給与をもらう心地よさに傾斜したのでしょうね。

消防広域化に伴う市長の意思表示 2005/11/24（木）

臨時議会終了後に消防広域化について全員協議会を開催した。冒頭市長は、「広域化は消防組合の正副管理者、広域組合の理事会の責任で進めて行きたい」と、初めて意思表示の挨拶をした。正副管理者、理事会の理事は市町村の「長」のことを指したつまりは議案提出者である。

広域組合に消防事務を追加したり、市町村合併に伴う区政市町村、議員定数の変更には、広域組合の規約変更を各市町村議会の議決が必要になる。

22 日に開催した能代山本市町村圏組合全員協議会でも統合後の消防職員の給与の平準化について合意点が見出せないまま、25 日には広域組合から各市町村に議決以来を送付すると伺っている。

議会全員協議会に議決権はない。市長提出議案と分かっているながら議決権のない全員協議会が「一本にまとめて決める」ことは出来ないし、議案の事前審議となる恐れがある。消防の広域化については全員協議会で十分説明を受けた。説明を受けたがイコール了承したこととはちがう。12 月定例議会に市長が提案してきて議会審議する。その結果「決める」

百聞は一見にしかず。早く掘ってください 2005/11/23（水）

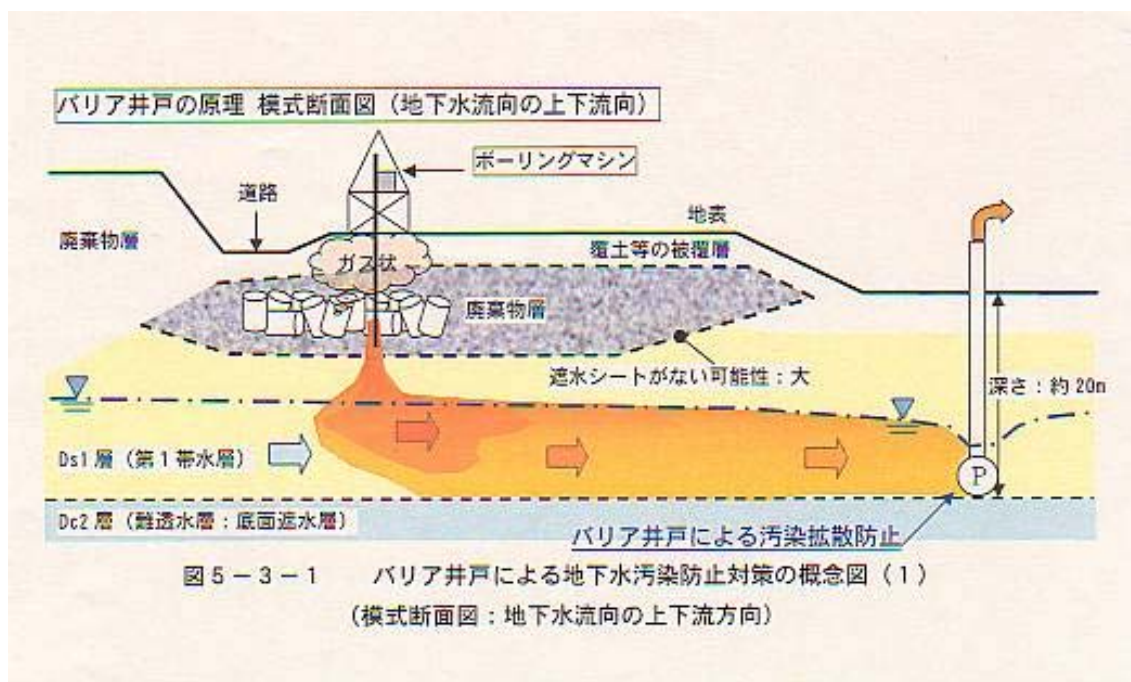
9 時には既に会場に到着した県職員にはびっくりさせられたが、朝 10 時から第 6 回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会を開催した。

当然案件は、能代産廃センターにおける非破壊調査結果と今後の対応についてである。



住民側は、次の質問を用意していた。「県はこれまで『管理型』処分場であるという間違った認識で検証委員会等説明してきた。調査結果ではシートが敷いていない可能性を示唆している。秋田県が許可した処分場の種型が安定型なのか、管理型なのか。安定型だとすれば処分した廃棄物の種類が問題になるし、管理型だとすれば処分場の構造上の違反となる。確認検査機関が確認していなかった、監督権限を使うことに落ち度はなかったか。」

冒頭挨拶の中で佐々木松彦県環境産業部長は、遮水シートが敷設されていない処分場であることが明らかになったことに監督の不十分を認め、「お詫びしたい」と陳謝した。長く続いた裁判の和解条項では「遺憾である」ととどめている。直接住民の前で県に落ち度があったとはじめて認めた格好となった。準備した質問は控えた。



「ボーリング調査」及び「重機試掘調査」を実施することにより、土の中にある液状物が入ったドラム缶に突き当たって穴が開く場合を想定している。「ボーリング調査」及び「重

機試掘調査」どちらでも同じことが想定されるならば、「ボーリング調査」はいらないのではないか。アームの長さで十分 5～6 メートルまで掘れる「重機試掘調査」に、直接入ったらどうか。「ボーリング調査」の目的が分からない。深さは何メートルか。汚染土壌までのあるところまでなのか。サンプルをとるためのものか。なぜ、「重機試掘調査」では、駄目なのか。

そして、土壌中のガスはVOC（揮発性有機化合物）の濃度を計測しているが、硫化水素の濃度計測の必要性を求めた。

最後に、「安定型から管理型に書き換えた図面、遮水工を表示するためにあとがきで引いた 55 年届出書の処分場構造図面上がある。書類上に不備が生じていることについてどうしますか。」と訊ねると、部長は「そういうことも住民の不安の一因となってきたことであるなら自分の責任において調べる」と、応じた。

私たちはさまざまな質疑応答を繰り返して県の調査方針を理解した。住民への情報公開を条件につけて調査の第二段階である「ボーリング調査」、「重機試掘調査」を実施していただきたいと、県に伝えた。

談合の名を借りて時間を稼ぐ 2005/11/22（火）

能代産廃処理センターの環境保全対策工事に絡み、特定の業者名を挙げた談合情報が 21 日までに寄せられ、県は今日 22 日に予定されていた入札を、延期した。

県はこれまでおよそ 18 億円あまりの環境対策費を随意契約もあろうが入札参加で決めてきた。特別措置法適用が具体的に進められようとしているときになって、これまで環境問題に関心の示さなかった中田満・潤兄弟議員および相思相愛にある族の執拗な循環型社会云々に名を借りた能代産廃処理センター再稼働の構想が明らかになった。

あれ？あれ？ ここに来て急に談合情報ですか？ これは私の推測である。特別措置法を適用した環境対策事業に利を得られなくて焦る族どものやり方ではないのか。狙いは仕事を取りたいものと、これ以上原因の究明が明らかになっては困る人の意気投合が、こんどは談合の名を借りて時間稼ぎする…。双方、私利私欲のために相当焦っている。おそらく中田県議と相思相愛にあるその族の 12 月議会を楽しむ材料になるのだろうか。

いずれ、欲する鷹は爪をはがして痛い目にあう。

住民 5 団体会議 2005/11/21（月）

23 日に開催される第 6 回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会に出される案件について住民 5 団体が集まる。「そら！見たことか！」と、県の調査結果は住民がこの目で見えてきて訴え続けてきた状況と寸分も変わらなかった。

処分場に遮水シートがなかった。ボーリングの必要性、構造上の違反に監督権限を使うことに落ち度はなかったかなど、当然意見は厳しい。これらの質疑、意見を持って 23 日の会議に臨むことにした。

鮮やかなスパートが教えてくれるもの 2005/11/20（日）

東京国際女子マラソンで高橋尚子選手が復活した。

人を元気にしてくれるコメントが気に入った。「24 時間はみんなに平等に与えられているチャンス。いま悩んでいる人も、一日だけの目標でも、いちにち一日を大切に過ごすことで、一步一步充実する」。このような内容であったと思う。

あの悪夢から 2 年がたち、一度は陸上をやめて夢をあきらめかけた人のメッセージは不思議なほど説得力があったと、わたしは感じた。



朝降った雪がとけて陽が差し込むとドウダンツツジの赤が映える

反響 2005/11/19（土）

昨日のニュースをテレビで見た方、今朝の新聞を読んだ方から「ここまでようやく辿りついたね」「あと一息」と、激励の言葉をいただく。

元県議と豊沢現市長の合併に伴う市長選挙に触れる言葉も少なくはない。が、解決するまで「鬼になる」私の信念は変わらない。

県民の多額の税金を使って環境対策にあたらざるを得なくなった能代産業廃棄物処理センターの負の遺産は、県民から十分理解していただける結果を出さなくてははいけないから。

処分場非破壊調査の結果 2005/11/18（金）

9 時 30 分からの会議を傍聴するため朝一番のバスで秋田に向かう。

秋田県は能代産業廃棄物処理センターの処分場№ 1、№ 2 を対象とした非破壊調査の結果を同センター環境保全部会に説明した。遮水性のない処分場であることが分かった上に、埋め立てられている廃棄物の中にはドラム缶などが存在し、濃度の高い揮発性有機化合物や、ベンゼンの分布が分析されている。

住民が求めている原因の究明にかなり前進したことは評価するが、住民が見ていても「おかしい」と思っていたことが、なぜ、住民の健康と安全を守る行政が、見抜けなかったのか。「当時の法律がいい加減であった」と、開き直っているのは後で言っているいい訳だ。

自治体の責任事務ではないか。処分場の構造上の問題、維持管理、立ち入り調査権の行使など等。順法精神に欠けていた秋田県のやり方に憤りさえ感じる。豊沢能代市長はこの日、知事との会談前に県庁入りして、担当課からの説明を受けたようだった。



方向性が見えぬもがく市長の姿が 2005/11/17（木）

24 日に開催する臨時議会に向けた議会運営委員会を終了後、会派会議を開く。提出案件は人事院の勧告による特別職、職員、議員、教育長の給与に関するものであるから、すぐさま会派の考えは統一した。

消防広域化、そして出店予定地にかかる農業振興地域除外の申し出のあったイオンに対して「申し出に沿った変更は行わない」と拒否回答したこと、先だってホームセンターヤマキが出店計画を申し出ていることなどに話題が移った。

どれをとっても中途半端で、青写真が示せないもがく市長の姿勢だけがうかがえる。

消防広域化は正式に市長から提案されていない 2005/11/16（水）

能代市議会全員協議会で、今日も消防広域化に伴う 3 消防組織で違いのある職名・階級・給与の平準化で質疑が続く。

統合時点の 3 月 1 日と、新給料表に切り替わる 4 月 1 日の 2 段階で「級」を揃えと言う。それであれば「4 年後にはおおむね平準化できる」との説明。給与の上げ幅に足踏みを余儀なくされる職員の身分の保障を「おおむね」に委ねてこれで GO サイン出しているものやらと、思いなげく。いやそれよりも、市長の消防広域化に対する意見は聴いたことがない。全員協議会の段階では市長からの提案したものでもないわけだから説明を受けるだけでいいのだ。

市長は「消防の広域化を決定したわけではない。消防の広域化について議会はどう考えているだろうか」と、会派周りの挨拶でそう述べている。

廃棄物の追跡・野焼きの現場 2005/11/16（水）

10月31日にここで紹介した野焼きの現場に、行政の指導が入ったようだ。



誤字脱字に申し訳けなく存じます 2005/11/15（火）

わたしのホームページを読んだ方から誤字脱字があると注意があった。文教が文京になったりしてなるほど目いっぱいにあった。自分ではかなり気をつけて何べんも繰り返してチェックするのだが…。変換ミスもどなたからか注意を受けるまで気がつかない。

誤字脱字に申し訳けなく存じます。今後も気をつけます。また、同じことがあったらご注意のほど宜しくお願いします。

生活保護費の国庫負担率の引き下げはだまし討ちだ！ 2005/11/14（月）

生活保護費は憲法25条で「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するために支給される。費用は国が4分の3、地方が4分の1の割合で負担している。

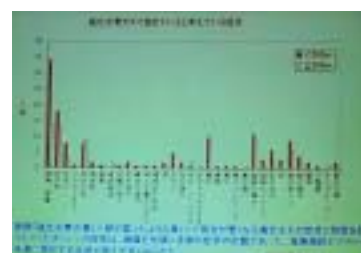
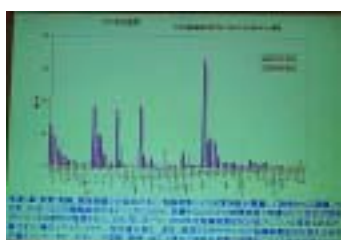
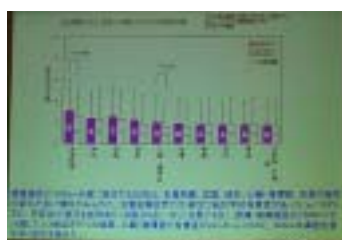
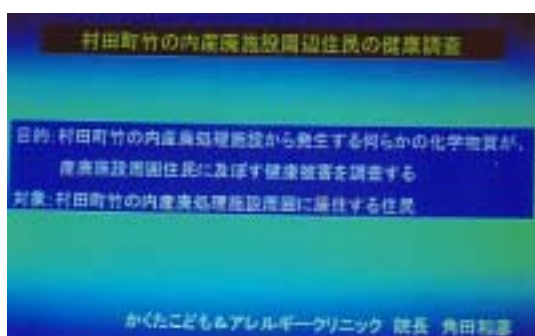
国と地方の税財政改革で、生活保護をめぐり地方と厚生労働省が対立している。厚生労働省の補助金削減の「ノルマ」達成の犠牲になろうとしているのが保護費の削減につながっている。生活保護の国庫負担金が年々増加しているから地方へ肩代わりで押し付けてしまうのは無理なことだ。これは財源の移譲の話でもなく、改革だというものではない。見直し案の撤回まで追い込まなければ地方は国のだまし討ちにあってしまう。と、言うのは過激でしょうか。

処分場問題全国ネットワーク2日目 2005/11/13（日）



2 日目の今日、全国から集まった処分場問題を抱える仲間たちがそれぞれの報告をした。北海道函館市の問題提起は市の一般廃棄物最終処分場に血液の付着した医療廃棄物の処分の実態が報告される。地域活性化を図るため、全国からわざわざごみを集めるために大々的に宣伝して有名になった小野町処分場のダイオキシン問題など等。みな係争中のものばかりだった。

昨日の現場である竹の内処分場周辺住民健康調査の報告がされる。産廃施設から自宅までの距離 500m 以上と 500m 未満での調査を対象とするなど、医師でなければわからないかなり細やかなところまで問診を用意し、住民の訴える症状や、硫化水素で起きていると考えられる症状まで統計調査の結果を紹介した。



各種調査をグラフで表示する

「産廃ってこれでいいのか」 処分場問題全国ネットワーク 1 日目 2005/11/12 (土)

廃棄物処分場問題全国ネットワークが主催する第 12 回廃棄物処分場問題全国交流集会 in 宮城に、9 年ぶりに参加した。廃棄物の不法投棄全国数多あれどすべて行政の無為無策が一因となっている現状は今も変わらず。かなり早い時期に問題提起してきた私たちの取り組

みに一眼おかれていることを知る。

宮城県村田町にある竹の内処分場の現地を視る。ここは不法埋め立て量 70 万立方メートル、日本最高 28000PPM の硫化水素ガスが検出された驚くことの処分場である。

ごみの上を歩くと鼻がつん曲がるような刺激臭で、すぐに頭が痛くなる。能代産廃場を思い出す。処分場の 300 メートル近くに中学校がある。悪臭で授業が出来なくなるとも聞く。ここでも恒久対策はごみの全面撤去を求めている。

硫化水素ガスの致死量は 700PPM。今日はその倍の 1400PPM を検出した。



汚水抜き作業



学校の手前は処分場



硫化水素を計量する

懸念していること「消費税論議」 2005/11/11（金）

久しぶりに冬の身の回りの品を買いに出かけて気がついた。表示されている消費税込みの商品の値段に、感覚が麻痺している。

そうだ。谷垣禎一財務相が「2007 年の通常国会に増税法案を提出したい」と、再任後の初会見で言っていた。小泉首相の諮問機関である政府税制調査会は、消費税について当面はしかるべきときに 10%への引き上げを目標とするべきと述べて、消費税論議がにわかに活発化してきた。

一方、自民党が 2015 年度の段階で必要な消費税について 12%程度の試算をしたことに谷垣禎一財務相は「なかなかの数字だ」と高く評価している。

政府は、国民が消費税込みの値札に感覚が麻痺するころあいを見て、現行 5%の消費税をアップする気だ。

だが、ちょっと待てよ。優先することは行財政改革ではないか。いまここで増税が具体化すると、行財政改革の手綱が緩んでしまわないだろうか。

新しい制度に負担の矛盾を感じる 2005/11/10（木）

6 月に成立した来年 4 月の改正介護保険法の本格施行に先駆け、先月 10 月 1 日から在宅で介護を受けている人との不公平を解消することを狙いとして、特別養護老人ホームや老人保健施設、介護療養型医療施設の食費と居住費は、全額利用者が自己負担となることが

原則となっている。

デイサービス（通所介護）やデイケア（通所リハビリテーション）の食費、ショートステイ（短期入所生活介護、療養介護）の滞在費と食費も同様に自己負担となっている。

負担額は利用者の所得や個室化相部屋蚊の契約の種類で決まるほか、低所得者には三つの段階を設けるなどして一定の軽減措置が設けられている。

一方、施設側にとっては、自己負担化で介護保険から支払われる報酬が減るわけだから、ケアの質の維持と経営を考えれば、「事業者の企業努力」にかなり厳しい影響がでてくるのではないかと。結果として利用者の「安心」が揺らぎそれもこれも負担増になる。利用者や家族にどう説明しているだろうか。

平成 12 年度に介護保険制度ができて 5 年目にして、新しい制度に負担の矛盾を浮かばせ憂慮している。

議会便り研修訪問を受けて 2005/11/9（水）

議会報の編集内容等の研修で久慈市議会会報編集委員会の訪問を受ける。平成 6 年まで年一回の行政報告どまりとなっていた能代市議会便りの創刊は平成 13 年 4 月 26 日が創刊号となっている。昭和 39 年 1 月 1 日創刊のくじ市議会便りは能代のそれと比べ物にならない年季が入っている。くじ市議会便りに「傍聴席からひとこと」と題したコーナーがあった。市民の声として議会傍聴者の中から依頼して本人に原稿を書いてもらっているという。能代市議会便りにはそれはないが、平成 15 年に市民意識調査の結果を実施していることに関心をもたれたようだった。

そして、議員が直接議会便りの編集にかなりかかわっている様子から比べると、私たちのしろ市議会だより編集委員会は少し議会職員に頼りすぎているような気がした。研修訪問に来たくじ市議会便り編集委員会から、逆にさまざまなことを教わりました。

親がパニックにならないように 2005/11/8（火）

返事がなければ問題がないといわれたそうだが、幼稚園で再検診をしたわが子はもう既に普通学級に入れなくなったのだと、来春、小学校に入学するための健康診断を受けた子どものお母さんが悩んでいた。祖父母も「孫のことが頭いっぱい眠れない。どうして？ どうして？」と、かなり思いつめて悩んでいる。こういった相談は、この時節に入るとよくある。

学校教育に携わる関係者は、いつでも何でもご相談をしてくださいと説明をしているようだが、「再検診をした」そのことだけでもパニックになってしまう子どもの親に対する配慮は、心のケアも必要だ。

立冬・名称が変わる境界 2005/11/7（月）

今日は立冬。暦の上では冬の初め。草も木も、そして水も昨日と変わらないが秋から冬へと草も木も、そして水も名称が変わる境界。



アオツツラフジ



ヤマウルシ



ツルウメモドキ

新・大阪便が 74 人乗りプロペラ機に 2005/11/6（日）

あきた北空港は、大阪便は利用低迷の中で冬季運休となっていたが、この一日から開港以来 7 年ぶりに 74 人乗りプロペラ機を使用することで大阪便の通年運行が再開したとあった。搭乗率から、夏場もプロペラ機を使用することになるようだ。

先月 9 日、プロペラつき飛行機で屋久島空港に着くと、その昔、新屋にあった元秋田空港を思い出し、写真を撮り始める客に誘われて思わずわたしもパチリと写真を撮ったと、書いたが、大阪便が再びジェット機に格上げされることは…。利用者をまず確保することだ。

民営化は 4 年半で実現したが…道路特定財源の行方 2005/11/5（土）

「民間でできることは民間に」と構造改革を唱える小泉首相が就任して 4 年半で実現したことが一つある。日本道路公団など道路四公団は先月一日、民営化され高速道路株式会社となってスタートしている。

民営化で今後の道路行政に心配していることがある。使途を道路整備に限定した道路特定財源を一般会計に繰り入れしようと見直しの論議に移ることだ。

もとより私は「高速道路はもういらない」主義である。が、さりとて中央都会が特定財源をふんだんに使って整備が整ったから、残された地方の道路の整備は特定財源を一般会計に入れてごちゃ混ぜにして使うのはいかがなものかと思うのである。財源になっているガソリン税、自動車取得税、重量税、もう一つ？税は地方のほうが都会より多く払っている

のではないだろうか。

きちんと詰めた議論をし、公平で透明性の高い決定方式をつくる必要がある。

そうだ、忘れてはいけない。道路四公団民営化推進委員会（正式名がちょっと分からずゴメンナサイ）での議論の過程で発覚した現役の副総裁が起訴された橋梁談合事件をご存知だろうか。民営化で今後は、この事件に象徴されるようにOB天下り企業との癒着の解消になるだろうか。これの監視も必要だ。

主役を「官」から「民」に移した米の 60 年 2005/11/4（金）

生産、販売、価格を政府が管理した時代に、米は郵政事業が争点となる何十年も前に、旧国鉄、健康保険とともに「官」の不効率の象徴であった。

誰でも米の販売に参入できるようになったのは昨年 4 月。「1 キロのサンプルからお試しして、よかったらご注文を」となるにまでいった。なにがそう、米を変えたのか。

1942 年（昭和 17 年）。太平洋戦争の真っ只中に足りない主食を政府がかき集め、公平に配る目的に米の管理は政府に委ねられて食糧管理法いわゆる「食管法」が施行された。

1945 年（昭和 20 年）。36 年ぶりの凶作となって、主食の一人当たりの配給量が一日 297 グラムに引き下げられ、深刻な食糧難となる。

米が過剰になって 1969 年（昭和 44 年）には政府を経由せずに米を流通させる自主流通米制度が発足し、1971 年には米過剰を解消するための生産調整という減反政策が本格的にスタートするのである。「食管法」の意義は失いつつ、中途半端な市場システムはヤミ米を公然と扱う業者が次々と現れ、「オレを食糧管理法違反で告発しろ」と挑発するやる気のある農家が行動に出始める。

1988 年の秋だったろうか。行政視察に行く新幹線の中にいて、「秋田県大潟村のヤミ米事件が不起訴」というテロップが流れた。

1993 年・細川首相の時代には戦後最悪の米不足となって外米を緊急輸入し、米市場開放の受け入れを表明した。タイ米、中国米、カルフォルニア米。もち米を混ぜたりして水加減を調整しては炊くのに苦労した。

米の流通が規制緩和した 1995 年。食糧管理法いわゆる「食管法」が廃止され、そしてコメ流通をほぼ自由化した改正食糧法が施行されたのである。

インターネットや電話による注文を受け、米生産者は少しでも高く仕入れる業者に米を売り、消費者は高くてもおいしい米を求めるようになって欲しい商品を選んで買う。市場経済の当たり前のルールが、米の世界にも広がったのである。

戦後 60 年は米政策の 60 年でもあるとは思って、こう、たどり書きをしてみた。

（時系列等、間違っているところがあったら、どうぞ、ご遠慮なくご指摘してください）

明日のためのリフレッシュのつもりが・・・ 2005/11/3（木）

お天気が冬空になって荒れると「ああ、種苗交換会が始まったからな」まるで合言葉になってしまうが昨日まで降っていた雨も、「文化の日」は、必ず晴れたお天気になる。それも全国的に晴れるというのだからおめでたい日なのだ。

今年の役目を終えた田んぼを見ながら山を歩く。頭の中をすっからかんにして気持ちいい一日を過ごす。

フッと新聞に目やってしまった。ホームセンターのヤマキが能代東インターチェンジ周辺に出店計画を明らかにしていた。出店予定地は、農業振興地域が 33573 平方メートル含まれるほかに、国道沿道が準工業地域となっている。能代東インターチェンジ取り付け道路を挟んで西側となる。この東側にはイオンが開発構想を表明し、農業振興地域の指定解除を求める申出書を能代市に提出している。

9 月のあるところで、東能代地区に住む某人が「市長は時代の流れに意固地になって逆らっている。市内の商店とそこに住む人だけが能代市民だがい？ 東能代街づくり懇談会だかなんだ課をつくってガス抜きさせて東能代地区住民を騙そうとしているだけでねえかい？ ねえ 原田さんよ！」と言って憤慨していた事を思い出した。鋭く私に突っ込むあの某人の目は真剣だった。



能代東インターチェンジ取り付け道路を挟んで西側（写真左方向）にホームセンターヤマキの出店計画があり、東側（写真右方向）にイオン開発構想がある。

農地所有者は農振法を解除して欲しいと願うが、豊沢能代市長はコンパクトシティを目指し、市街地の活性化を図ろうとしている。だから、農振法は解除しないと言う。

歴史と伝統を誇る農業の祭り 2005/11/2（水）

第 128 回秋田県種苗交換会が、昨日 1 日から、鹿角市を会場に開催した。県内 9 ブロックを持ち回りで毎年秋に開かれる種苗交換会は、県内の農家が自慢の農産物を出品し展示したり、農業の将来について、今起きている問題等を提示しながら語り合う農業の祭りである。明治 11 年から毎年開かれている歴史と伝統を誇る行事である。

私たち農業委員は、午後 1 時から開催する第 49 回秋田県農業委員大会に出席する待ち時

間を利用して近くの第1会場をみて回った。

会場では農産物のほかに県内各地の特産品が売られたり、農機具などの各メーカーがたくさん並んでにぎやかに客を呼び込んでいた。能代は平成15年に開催している。



農業委員大会会場



農機具商品を売る



珍しい出会いお座敷用箆

農地の賃貸借を円滑に進めるために 2005/11/1（火）

11月能代市農業委員会会議が行われ、引き続き農地専門委員会を開催する。農地の賃貸借を円滑に進めるために定めようとする能代市標準小作料改定の（案）が示された。賃貸借の契約を行う場合、当然収量、耕作しやすい農地かどうかなど土地条件なども加味して双方話し合いのもとで行われ決定される。が、米価格の下落が続く価格変動及び、その年の収量出来高しだいによって小作料の額を決めることになる場合は、これもまた特に不作となったらなかなか難しい問題が残る。

田の部は地域収量による区分を上田地域、中田地域、下田地域と分け、畑の部を全地域とした提出（案）は、おおむね了とした。気になったのは、開パ事業で多額の開拓金を負担している田がオール下田となっていることだ。

廃棄物の追跡・野焼きの現場 2005/10/31（月）

みて下さい、人が入らない山の中。廃自動車、たんす、ガスボンベ、なんでもありである。これを解体家屋から排出された廃棄物の一時保管とみるか不法投棄とみなすか。焼却場と化したそのすみっこで今日は廃材となった断熱材等を野焼きしていた。



「蒲の沢」状況視察 2005/10/30（日）

昭和 62 年から能代産業廃棄物処理センターの廃棄物最終処分場から漏れ出したごみ汁は、漏水防止のために北側に設置した遮水壁築造（平成 6 年）後、その効果一部ありとも浅内財産区有地「蒲の沢・南沢」を、汚し続けている。

住民の強い要望を受けた秋田県は、倒産した事業主が変わり、県単独事業として環境対策維持管理を講じている。

今日は、地元の住民が滲出水の目詰まり状態が解消されつつある集水機能改善工事の現場を視察した。

すべてが滲出水ではないが周辺の沢水込みで一日約 150～160 立方メートルを回収しているという。15 年対策工事した石の間からは杉の実生を確認した。



一服するは、これも中毒症状？ 2005/10/29（土）

これは私のお茶タイムのことです。

外から帰って一服する。今日のひと仕事が終わったぁといって一服する。今日一日を振り返って一服する。これ書き始めようかなといって一服する。書き始めて言葉が見つからない…で、考え込んでは一服する。書き終えて満足して一服する。一日が終わったぁと反省を込めて一服する。

最近のいま、パソコンのキーが動かなくてワープロが打てない。気持ち腐っては一服する。パソコン入院か？

「郵政反対派」の処分 2005/10/28（金）

「郵政民営化法案に反対した。離党せずに総選挙に立候補した。党公認候補の妨害をしたことは許されない。特別国会での首相指名。再提出された郵政民営化法案への対応。」

自民党紀委員会は、衆議院内の会派「国民新党・日本・無所属の会」の野呂田芳成氏を自

民党除名処分と決めた。これでは余程の功績か上納金を積まなければ自民党には戻れまい。

渡りに舟とばかりに野呂田離れができると、早速腹の中でよろこびはしゃぐ建築・土建業者たちがいた。そうそう、自民党県議会議員の中にもいました。

野呂田氏が顧問を勤める某会で「竹下氏はDDTと、PTAの違いが分かる人だから田中派を脱して竹下派に組する」と挨拶したとき、寄らばその時の大樹の陰に回る人とみた私は野呂田氏を応援する気になれなかった。それに拍車を掛けたのは能代産廃問題に元県議会議員能登氏と国会議員野呂田氏が名を連ねて出てくるようになってからだ。

地元のために何をしたか。そうやって野呂田氏に面と向かって顔を背けたのは私だけだったかも。

負債総額 355 億円・財団法人県林業公社の経営 2005/10/27（木）

地球温暖化対策と森林・林業基本計画の着実な推進で森林・林業・林産業の活性化と豊かな山村を目指そうと平成 6 年に設立した、秋田県「森林・林業・林産業活性化推進議員連盟」連絡協議会の平成 17 年度定時総会に出席した。



県議会議員や県内各市町村議員のこの趣旨に賛同した「議員連盟」で構成し、能代市議会林活議員連盟は平成 7 年に加入している。

市町村合併後の再結成が未確認であったりして、県内各市町村議会林活議員連盟の出席は少なかった。

「森林・林業・林産業関係施策の推進について」秋田県農林水産部 森林技官 清水邦夫氏の講演を聴いた。レジメ最後に「公社林の経営改善」とあったが、さりとて通過してしまったのか聞き逃したのかあまり記憶に残っていない。県内の民有林を整備する財団法人県林業公社の経営改善に触れたのだろうと思う。

同公社は 1966 年に県から 1 千万円の寄付を受けて設立された。杉などを植林し、将来の材木の売却益を頼りに運営しているが、何せ、杉は 50 年以上の生育期間が必要とされる。このため、植林やその維持費などの大部分は、国や県の補助金、県と農林漁業金融公庫からの借金で賄われてきた。

輸入自由化の影響もあろうが木材価格が下落変動する中で、いくら経営の改善計画を示そうとも、いまとなっては「焼け石に水」と私は思う。このままでは負債額が増えるばかりであることは間違いない。経営が行き詰まって県民が負担することだけは避けてもらわなければならないが…。避けられそうにはないようだ。

改革はここから。もう、参議院はいらない？ 2005/10/26（水）

法案は前通常国会でわずか5票差で可決した衆議院は、参議院本会議で一度は否決されて、廃案になっていた。衆議院には「3分の2」超の賛成議席があれば、参議院で否決された法案を衆議院で可決できるというルールがある。

自民党与党は衆議院での大勝をバックに再議決すれば法案は成立するということである。

一方参院でも、先の国会で郵政民営化法案に反対したのに、衆院総選挙後の国会では賛成に転じる、という自民党参議院議員が続出した。衆議院総選挙の結果に左右され、再議決の事態を免れなかった事実は参議院が「衆議院の追認」だけに終わっていることを証明したようなものだ。二院制の下における参議院の存在理由はない。改革はここからだ。「参議院不要論」に再び火がつきそう。

消防広域化「まず、やらせてみてくれ」でいいのだろうか 2005/10/25（火）

21日に未協議になっていた案件の協議を再開した。消防広域化に伴う3消防組織で違いのある職名・階級・給与の平準化で質疑が続いた。

消防の一本化が必要だと市当局は説明する。が、格差の平準化がされなければ3消防の人事の異動、交流ができないという。指揮命令システムへの影響も考えられる。それじゃあまりにも説得力がないではないか。

「まず、やらせてくれ」に、「ああ、そうか、まずやってみれば」でいいのか。議会人として私は責任をもてない。消防広域化を念頭に合併した4市町が、これから数年掛けて平準化に努力してみたらどうだろう。それからでも遅くはない。

消防広域化に合併特例があるわけでもない。どうして急がなければいけないのか？

あいた口がふさがらない風・総選挙の余熱 2005/10/24（月）

議論と話題とドラマがあった一ヶ月あまりにおよぶ解散・総選挙が終わってみれば、自民党には大量の新人議員（83人？）が誕生し、民主党は惨敗した。

あれから2週間の昨日23日。初の国政選挙となった参議院選神奈川では勝って当然の自民党川口順子氏が当選し、宮城県知事選は自民党推薦の元県議元陸上自衛官・村井嘉浩氏が当選した。総選挙の余熱は、あいた口がふさがらない風に乗っている。

間もなく二度目の冬が・震災は忘れてはいけない 2005/10/23（日）

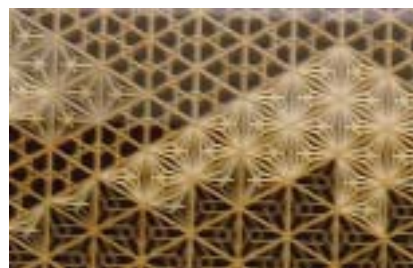
51人が死亡した新潟県中越地震から一年が過ぎた。午後5時56分。夕方のこんな時間に地震が起きていたのかと外をのぞくともう薄暗かった。

間もなく二度目の冬を迎えるのに仮設住宅で避難生活を続けている人もいれば、被害が大きかった豪雪地帯の中山間地では道路、農地の復旧はかなり難航している様子がテレビにうつる。疲労や不眠がストレスとなって健康が悪化する人が心配だ。

夕方に発生した中越地震は、通信手段を含めた地域防災計画のあり方も問われたのではないだろうか。復興に当たってこれらのことも十分念頭に入れた調査研究が欲しい。

ものづくりへのやる気をもらった「のしろ産業フェア」 2005/10/22（土）

午後、今日から開幕し地元産業界が「元気」をアピールしている「のしろ産業フェア」にでかける。木都・能代の技術を誇る木工建具や、ランプシェードに、ものづくりへのやる気をもらった。



ヘキサゴン（六角形）の構図を駆使した指物木工品

広域組合議員定数 16 人の配分 2005/10/21（金）

広域組合議会の議員定数は、現在 24 人で 1 市町村 3 人である。合併で構成市町村の数が 8 から 4 に減少する。来年 3 月にはこれまで組合で共同処理する事務に消防を加える予定である。そのため、消防広域化・合併後の新議員定数が課題となっている。

3 日までに定数 16 とするところまでは合意している。今日開かれた能代市議会全員協議会は、最終的に「藤里町の議員数にも配慮した形で、新能代市 7 人、三種町 4 人、八峰町 3 人、藤里町 2 人という多数意見をもって市議会の総意とする」と、意見を集約した。

午後 1 時から総務委員会、文教・民生委員会の管内視察があり、24 日に再度全員協議会を開催することにし、他の予定案件は未協議のまま閉会した。



進捗率（予算配分）約 17%。浅内小学校建設工事現場を視察する文教・民生委員会

環境を守るための腰の据え方を学びました 2005/10/20（木）

県は 18 日、今年度の文化功労者 7 人を発表した。その中の一人に自然保護活動の普及と啓発に功績あった藤里町の鎌田孝一氏が受賞したことを知った。

白神山地のブナ原生林を守る運動に取り組んでいるときに何度か鎌田氏に会った。傾斜配分が家業よりブナ原生林を守る運動に取り組む鎌田氏の姿に、亡くなった奥さんの協力があればこそと話していた。語るにも語れない苦労があったはずだ。おふたりから私は、環境を守るための腰の据え方を学んだ。

1993 年（平成 5 年）の白神山地が世界自然遺産登録の原動力になったあとも自然保護活動が続けている。鎌田さんの継続するこの尽力こそ、功労者としてその栄誉を称えるにいちばんふさわしい受賞だ。心からおめでとう！

議会便り編集委員会 2005/10/19（水）

午前 10 時から。環境課も同行し財政課に誘われて「蒲の沢」の現況を見に行く。ごみ汁で汚れたあの惨憺たる山は状況が一変する県の環境維持対策工事だ。

午後 1 時、9 月議会を市民に報告するための最後の編集委員会に出席する。環境産業委員会の管内視察があって時間が押し詰まっていたが、これまで開催した二回（5 日、12 日）の委員会でレイアウトや掲載記事の修正すべきと指摘された部分については手直しされている。菊池委員の編集後記も良く出来ている。

今日は珍しく信太氏が出席した。職員から出席した証のホームページ掲載用のポーズ写真を撮ってもらって帰った。うらやましいほどのマイペースで自身が委員を務める環境産業委員会の管内視察に向かったようだ。



午後 3 時、加齢ゆいに健康をそがれた保坂さんを伴っ

て再び「蒲の沢」へ。

「これが解決しなければ死んでも死に切れない」と、心底訴え続ける一人・保坂高道氏が蒲の沢の工事を見てVサインする。思わず涙をもらってしまった。

十二湖を歩き、自然破壊を実感していた 2005/10/18（火）

第二回世界自然遺産会議は昨日 17 日、自然保護と地域振興の推進、次世代への遺産の価値を伝える教育活動の促進などを誓って閉会した。

閉会式に出席した寺田秋田県知事は、豊かな自然を「未来からの預かりもの」と位置づけし、遺産地域内はできるだけ人手を加えず自然に委ねることを基本にしていると強調した。

青森県深浦町にある十二湖の代表的な湖沼「青池」は実に神秘的であった。数年前から散策して気がついたことがある。その十二湖の「青池」が、底まで透きとおって見える真っ青な色彩は薄くうせて、またあるときは白く濁っていた。

「青池」まで徒歩 10 分足らずまで車の出入りができるほど観光道路だけは年々舗装整備されていた。観光客優先で自然保護対策が無防備になった「青池」はその湖沼水辺の際まで観光客の土足で踏み込まれていたのである。

私は、あの痛ましさに世界遺産になったから自然環境保全が果たされるとは限らない自然破壊を実感していた。最近になってようやく気がついた深浦町の関係者は、遅ればせながら「青池」保全のための防護策を設けている。

世界自然遺産会議は、来年 10 月に九寨溝自然遺産がある中国四川省で開かれる予定だ。

ポケットからワンコイン・靖国参拝は形式を変えただけ 2005/10/17（月）

中国や韓国とのきしみが心配される中、小泉首相はどんな気持ちで靖国を参拝をしたのだろうか。テレビから首相の姿を視ているうちに、そんな思いに包まれた。

9 月末の大阪高裁の違憲判断や世論が分かれていることにすべてを押し切って公然と参拝する。首相は国を代表する存在であり、その行動が政治的な意味を持つとき、いくら自分の信念を通した「私的な参拝」と、装いを軽くした演出を釈明したところで通用しない。

A 級戦犯が合祀されていることへの近隣諸国の反発の強さに、あまりにも無配慮だ。早速報復措置がとられようとしている。中国は外相会談の取りやめ、韓国は大統領訪日の延期をそれぞれ示唆してきた。

衆議院選挙圧勝で高揚するのもいいが、「信条」だけでは済まされない靖国神社には複雑な方程式がある。小銭で喧嘩を売るより、「国益」を考えるべきではなかったか。

中国の「神舟 6 号」が、5 日間宇宙を楽しんで無事帰還しためでたいニュースは、かたスミッコにやられてしまった感じだ。

郵政民営化法は、消化試合のようにして成立 2005/10/16（日）

法案は通常国会の参議院本会議で一度は否決されて、廃案になっていた。衆議院総選挙での自民大勝を受け、今国会には同じ内容で再提出されていた。

まるで消化試合のようにして 14 日の特別国会で郵政民営化法が成立した。

衆参の郵政造反組は相次いで賛成に転向。岐阜 1 区からでた野田聖子氏は、「法案反対という自らの政治的主張は完敗した」と述べ、賛成に転ずる理由を自民大勝の選挙結果を挙げた。こともあろうに選挙戦では阻止を訴えて当選した元郵政相のこのテイタラクな分かりにくい発言である。小泉首相の周りはいよいよイエスマンばかりになったか。独善的手法がまかりとおっていないか心配だ。

「刺客」を向けられて対立候補にバッジを奪取された前議員たちは今、どんな思いでいるのだろうか？

第二回世界自然遺産会議が開幕 2005/10/15（土）

白神山地は青森、秋田県にまたがる世界最大級のブナ原生林で、1993 年（平成 5 年）に鹿児島県の屋久島とともに世界自然遺産に登録された。アメリカ、中国など世界自然遺産をもつ 16 カ国 27 自治体が参加して今日 15 日、白神山地を抱える青森県で開催した。

登録地では観光客が急増したことで、かえって環境の破壊が進んだり、あるいは植物等の生態系に変化が起きている事例を耳にする。

ここ白神山地でも、核心地域の広範囲で外来種のオオバコがぎっしりと繁殖していることや、白神の奥深い山の中にあるはずのないヨモギやアスパラガスが生えていることが青森県側から報告された。動物による食物連鎖等の影響もあろうが、入山者も気をつけなければならないことは何かないだろうか。

もっと生きていられる人が亡くなってしまう・・・ 2005/10/15（土）

電話口で聞く訃報を信じられなかった。

ちょうど 2 ヶ月前「体調が思わしくない。健康第一」そう言って、退職以来十数年楽しんでいたパッチワーク・キルトの手を休めたばかりの K 子さんは、14 年 1 月に乳がんの手術をしていた。あれから 3 年半の昨日 14 日、あまりにも突然に逝ってしまった。

書棚に置きっぱなしになっている絵を見て「私もいわさきちひろの絵がすき、マリー・ローランサンの絵がすき」と言っていた。もっと生きていられる人が亡くなってしまう・・・

布との出会いをつなぎ合わせて楽しむ在りし日の K 子さんを偲ぶ。

世界自然遺産・屋久島メモリー 2005/10/14（金）

一晩ぐっすり眠った。ふくらはぎの痛みは、午後になって回復していた。元気を取り戻してデジカメ覗いて、メモリーカードをパソコンに取り入れてC Dにコピーを完了した。容量 567MB 684 枚の写真を撮っていた。連休を利用しながら 2005/10/9（日）から家にたどり着く 2005/10/13（木）までの屋久島メモリーは失敗と反省もあったが、豊かな水のエネルギーは電気が変わり、世界遺産の指定を受けた自然保護の必要性和環境教育は今後の環境行政に活かせる大きな収穫があった。

2005/10/9（日） 朝7時50分、秋田空港から飛行機を乗り継いで午後1時、屋久島空港に着く。屋久島行きを待つ鹿児島空港もローカルだが、屋久島空港もまたプロペラつきで屋久島空港に着くと、その昔、新屋にあった元秋田空港を思い出させた。



屋久島行きを待つ鹿児島空港もローカルだ。プロペラつき飛行機で屋久島空港に着くと、写真を撮り始める客に誘われて思わずわたしもパチリ。

明日は白谷雲水峡をめざしていたので、楠川歩道入り口近くに民宿することになっている。屋久町と上屋久町の合併破綻の経緯を議会のリコール、解散を、微にいり細にいりおまけに家族の話まで拝聴させていただき、おかみさんが切り開いたという広い庭を散策した。してやっと午後4時になって慌てて車で屋久島環境文化村センターに行く。大型スクリーンに迫力ある映像で屋久島の自然をダイナミックに見て、屋久島の全体像を理解することができた。



屋久島環境文化村センター 水の摩擦力で丸みを帯びた花崗岩 くわすいも

いよいよ明日、山へ！ 気持ちを高揚させて宿に戻ろうとしたら、おかみさんは行きつ

けの洋品店に立ち寄って7時が過ぎた。雨が降り続けている。

今晚食、明朝食は外でといわれても民宿は山の中の一軒家で食堂はなかった。おいしい黒豚のステーキを食べに行こうと誘ってくれたが、断ってコープから弁当を買って食べた。洋品店で買ってきた着れそうにもない服を眺めながらため息が出た。

一日目から私の計算は何となく崩れそうな予感がしてきた。

2005/10/10 (月) 5時30分、起床。外はかなり強い雨が降っている。8時30分、覚悟の雨だったが、第一回世界自然遺産会議のガイド役を勤めたというおかみさんから、楠川歩道入り口から白谷雲水峡に入ることは無理だといわれる。

徒歩が駄目ならバスで行こうとしたらご親切に車でガイドしてくれるという。普段スナックをやっているの朝早いのはどうやら苦手らしい。10時を過ぎて山に向かった。

実は昨日から車の油タンクの計量器に赤ランプがついていた。思わず「給油してください!」といった。島料金でリッターあたり20、30円ほど高いという。ガソリンスタンドの店員に「3000円で止めてください!」と、言ってしまった。

車で30分そこそこに標高800メートルの白谷雲水峡に着いた。1時間当たり200ミリの山の豪雨は、ビー玉のようになって容赦なく降っていた。

「秋田県能代市…」そう伝えて、森林環境整備推進協力金として300円を払う。うっそうとした森の中の歩道から山に入った。しかし、奥深い原生林歩道に入ること、もののけ姫の撮影モデルとなった辻峠付近は、雨で増水する危険があって立ち入ることはできなかった。

そして台風14号の被害で、山が岩が崩れ木が倒れていた。



午後1時下山。おかみさんとお別れのご挨拶を交わして、バスで今晚の宿泊地である安房に向かった。民宿に慣れていない私は、ほっとしてここで晩御飯を食べたが、観光地となった屋久島の「民宿」のあり方、「ガイド」のあり方に問題は起きていないのだろうか、ほんと！真剣に考え込んでしまった。

連休で縄文杉コースには昨日約500人、今日約200人を超えているそうだ。

それにしてもズーとズーと雨が降っている。林ふみ子の放浪記に「屋久島は、一ヶ月のうち35日雨が降っている」と読んだことを思い出した。この大量の雨は、水力発電となって屋久島電力が90%、島住民が10%を使用しているという。



安房港



ハマオモト（ハマユウ）



安房の子どもたち

2005/10/11（火）5時30分起床。今日午後1時には政和会薩摩会長たち3人と公明の平野代表が屋久島に到着して、屋久町を訪問することになっている。

なにやらすっきりしないで一晩あけた私は、バスの時刻表とにらめっこしながら、意を決してバスを乗り継ぎ、足を使い安房から宮之浦から再び白谷雲水峡に着いた。雨も降っているが今日は濃霧で目の前が見えない。昨日の豪雨で増水し、立ち入り禁止区域がさらに厳しくなっていた。

白谷雲水峡は、世界遺産指定区域からは外れている溪谷だが、林の中の白谷川が重なる巨岩を清流し、木を覆うコケの緑が目を引き。一本の杉にたくさんの他の植物の木が着生している姿に驚き、倒れた屋久杉の幹に生まれた若い実生の屋久杉を目の当たりにしては、あらたな命の芽生えに感激の連続を堪能した。



さつき吊橋



地床植物（シダ、コケ）で緑に覆われる杉



白谷川の清流

樹齢3000年といわれる弥生杉は、観光客にその木肌・樹皮をはがれたところから雨水が滲みこみ病み始めていた。「あと5年もすれば、この木弥生杉は倒れるかも…」と、ガイドは寿命の危険を警告していた言葉に心痛む。

観光客に踏み荒らされてしまった深浦町の「青池」を思い出し、白神山ぶなの木を想い、自然保護の大切さと環境教育のあり方を口説かれた気がした。

木肌・樹皮をはがれた弥生杉



他の植物の木が着生している

11 時 40 分、バスで山を降りて空港へ向かった。飛行機から降りてきた 4 人と合流してバスで屋久町へ。

日高・屋久町長からご丁寧な歓迎のご挨拶をいただいた。白神山地のある青森県西目屋村には何度か訪問しているという。この 15 日から青森県で開催される第二回世界自然遺産会議に出席する用意をしていた。新市名称を「白神市」にしなくて良かったなど、苦笑いしてしまった。



日高・屋久町長から歓迎のご挨拶をもらう 土埋木 屋久杉自然観には天然秋田杉も

屋久町の環境行政は、ごみ処理に取り組む環境対策と、屋久島の自然保護・世界自然遺産の環境保全の取り組みと二部構成になっているが、実はしっかりと来年度から施行される食品リサイクル法ともつながりを持って資源循環型システムの屋久島モデル構築を確立しようとしている。

平成 11 年 6 月から収集開始した廃食用油は、酸性雨の原因の一つである硫黄酸化物を発生させないよう水辺環境や海洋環境の保全を目的に、食用油代替燃料化装置を導入し、現在、公用車 25 台を使用していた。

環境庁・地域温暖化防止実証実験地域に指定され、平成 12 年 3 月からは、食用油の代替燃料化が地球温暖化防止にどの程度の効力があるかを実験しているという。

そして、廃自動車の収集の取り組みもまた、この島ならではの対策であろうか。廃自動

車を町内から一掃するためにその処理費用の 2 分の 1 を補助している。平成 16 年 4 月に補助廃止となったが、廃自動車の離党対策が必要課題になっていた。

一方、屋久島の自然保護・世界自然遺産の環境保全の取り組みにも関心がある。世界遺産登録後の観光客急増とともに、産業にガイド、民宿が増加していた。昨夜、考えたら眠れなかった民宿、ガイドのあり方が問題となっていた。

島外から移住してきたにわか住民ガイドを含め約 160 人のガイドが「われの案内でないと行けない所がある」と顧客の奪い合いから、既成の登山道意外に立ち入るものもいるという。昨年 5 月、沢登り中の男女 4 人が増水した川に流され死傷する事故がおきていた。

「このままでは屋久島が素っ裸になってしまう」と、救急法受講を義務付けた屋久島ガイド登録・認定制を導入しようとしていた。



屋久島の「自然」を案内するマップの気配りは徹底している。観光地となる場所を単にまるで囲むだけではない。目的地までの目安になる所要距離と時間、初心者向けの日帰り登山から本格的な縦走まで、コースの道案内がしっかり点線つなぎで辿れるように地図に載っている。「自然」が踏み荒らされないよう観光客のコース分散も図っている。

明日は、体力や滞在時間（鹿児島に戻る飛行機の待ち時間）に合わせて、私と伊藤さんは荒川登山口から縄文杉へ、薩摩さんたち 3 人は大川の滝から紀元杉のコースを選んで挑戦することにした。

2005/10/12 (水) 朝 3 時 30 分起床、4 時丁度に宿を出て、4 時 44 分一番乗りで荒川登山口からなんとその幹の太さはたたみ八畳分のある縄文杉をめざした。行きは 11 キロ帰り 11 キロ往復 10 時間を見込んで午後 3 時には戻る予定だ。びちゃびちゃの雨の中、枕木に歩幅の合わないトロッコ軌道を懷中電灯で照らしながら約 8 K をひたすら歩いて大株歩道入口に着いたのは 8 時を少し過ぎていた。ここで既に予定より 1 時間遅れている。



4 時 44 分荒川登山口 陸橋になっているトロッキ軌道 転げ落ちる…終わりだ

めざす縄文杉まであと約 3 キロ。登山道はところどころ木道階段で整備されているが急激な岩登りの獣道である。綱をひき体を斜めにして山に登るスリルをあじわい、急斜面から沢下を覗くとダムからの放水が音を立てて流れているような川になっている。ここに転げ落ちて流されたら一巻の終わりだ。

縄文杉にまっしぐら、わき見も振らずに登る人に道を譲り、私は周りの景色を写真に撮りながら、そして心臓がパクパクしない程度にゆっくりとインターバルしながら登ることにした。この写真撮影タイムと休憩ペースが後で命取りになるとも知らずに。



花崗岩に張る木の根っこに足は取られ、増流する水の中をジョボンジョボンになって岩石を渡ると、今度はきつい階段が待ち受けている。

途中、雨で重量が嵩んだリュックを木道階段の下に置いて標高 1300 メートルの縄文杉に到着したのは 12 時近くになっていた。



縄文杉に登る順番を待つ

縄文杉を踏圧から守るために設置された展望デッキ

どんどん私を追い越して縄文杉をめざして登った修学旅行の高校生たちが、縄文杉の展望デッキに固まってガイドの説明を受けている。降りてくる待つ時間の長いこと。

私は、下においてきたリュックの中に、おにぎりを入れたまま、チョコレートも飴も入れて、水の入ったボトルと貴重品だけ持ち出していることに、やっと気がついた。

飲み水は、雨水でも代用できる。雨に濡れてぐちゃぐちゃになっていても、おにぎりやチョコレートの食料を持ち出すべきであった。朝食は、車酔いで食べれなかった。とたんに空腹から目が回った。恥も外聞もなくお隣で縄文杉を堪能している方からおにぎりを1つこ分けてもらった。



花崗岩を抱えるように根をはわせるヒメジャラの木



樹齢 2170～7200？縄文杉

縄文杉とその周りを十分堪能し 12 時 27 分、山を降りた。行きは木の根を掴んで登ったが、帰りは足が吊らないように「後ろめんこ」で木の根に掴まって滑るようにして降りる。小杉谷集落跡まで着て「ああ、疲れた」と、ベンチに横になったのが悪かった。ここからトロッコ軌道の残り後 3.2 キロで歩幅の合わない枕木に足をすくい取られて縛れた。



木の根が這うけものみち



小杉谷集落跡



枕木に歩幅が合わないトロッコ軌道

往復路 36000 歩の下山時刻は時計の針が午後 4 時 41 分をさしていた。飛行機の時間が迫っていた。休む間もなく雨合羽の結露で体は濡れたまま屋久島空港へ向かった。

下山予定時刻の午後 3 時に 1 時間 40 分遅れた私は、登山道入口で待ってくれていた 3 人と、一緒に山に登った伊藤さんに、山に登って絶対あってはならない心配と迷惑を掛けてしまった。

山の恐ろしさを実感した。あれほど綿密に立てたプランの何がどういけなかったのか。一つ、二つ、三つ、声を出して反省した。

2005/10/13 (木) 朝起きてふくらはぎが痛い。歩くのも辛い階段の上り下りは「もう、見るのもいやだ!」と、思わず叫びたくなるほど悲鳴をあげている。人目から見ても、飛行機や車に乗り降りする私の格好のその姿は、見るに忍びないひどいものだったようだ。重い体を持ち上げてもらってやっと車に乗せてもらった。

夕方 6 時過ぎ、家にたどり着いてバツタン・キュー。待っていた家族に土産話どころか、ただただ眠りに直行した。



屋久島で見た草花

リーダーにはしゃべっていい「時宜」というものがある 2005/10/8 (土)

二ツ井町との合併協定では、将来の新庁舎の建設・位置は「新市において検討する」としている。

能代市 9 月定例会開催の冒頭で豊沢市長は、淳城 3 小学校の統合で空き地となる淳城第二小学校の校舎・敷地について「新庁舎の候補地の一つとして活用できるか検討する」ことを明らかにした。

そして、市職幹部が二ツ井町に出向き、市長発言の真意を説明するための行脚をしている。いわば市長の尻拭いだ。

一般質問でも取り上げられ、「新庁舎の候補地の一つとして活用できるか検討する」と、市長は答弁している。

案の定、昨日開催した第 10 回能代市二ツ井街合併協議会で、「新庁舎の建設・位置は新市において検討することに決定している。新市発足前に能代市が新庁舎の候補地で論議さ

れるのは理解できない」と、市長の真意をただす委員がいた。

これに対し、豊沢市長は「選択肢の一つとして（新庁舎）を示した」と述べ、あくまでも検討段階での案に過ぎない」としながら、「候補地は存在していない」と合併協議会の決定事項「新市において検討する」を尊重する意向を示して「疑念を抱かせないように十分気をつける」と釈明した。

「候補地は存在していない」と、なると…。あれ？ 9月議会一般質問に対する市長答弁とはかみ合わなくなる。

「情報公開」と「おしゃべり」は違う。リーダーにはしゃべっていい「時宜」を慎重にしなければいけない。「冠発言」で7市町村合併に失敗した教訓が生かされずにいるのは、「首長責任」に、けじめをつけていないから同じことを繰り返すのかも…。



淳城第二小学校校庭と、校庭にある「白樺」

これほど高くなるとは思わなかった 2005/10/7（金）

我が家では、すでに朝な夕なにストーブを焚いている。これからが本格的に需要期に入るというのに灯油の価格が湾岸戦争以来の高値になっている。18 リットルの宅配値が約1280円で昨年より約300円以上は高いのではないか。

原油価格高騰の影響あるとは覚悟していたが、これほど高くなるとは思わなかった。農家だって、漁業だって、クリーニング店だってみな石油製品。ガソリン、灯油、軽油である。あらゆる業種の経済に打撃的な影響を及ぼしている。

年金保養センターのしろも売却対象に 2005/10/6（木）

公的年金や政府管掌健康保険の保険料を財源に全国各地に健康福祉施設などが建設されてきた。保険料の無駄遣いとの指摘を受けて、国は計328施設を整理するため、この10月1日に「年金・健康保険福祉施設整理機構」という独立行政法人を設立した。社会保険庁から出資の形で譲り受け5年間で売却、整理するという。

売却対象に能代市落合にある「国民年金健康保養センターのしろ」も含まれている。どのような方針や手順で売却されるのか、まだ分かっていないが、「国民年金健康保養センターのしろ」は19年秋田わかすぎ国体少年男子バスケットボール会場に隣接して、協議関係

者の宿泊施設として利用される予定である。市当局は独立行政法人移管後も、少なくとも最低 5 年は現状維持の存続を要望している。



「国民年金健康保養センターのしろ」の利用者は多い。老朽化が進んでおり、これからの維持管理費用は掛かり増しになるだけだ。この施設後ろ正面にある能代山本スポーツセンター「アリナス」は、平成 19 年国体バスケット会場になる。

健康ライフ・乳がん検診のおすすめ 2005/10/5（水）

とある新聞の広告・女性の 22 人に 1 人が「乳がん」にかかる時代。家事や仕事で忙しいと後回しにしないで、「乳がん検診」を受けていただきたいですね。

能代市保健センターは、乳がん検診用機器のうち乳腺・乳房専用のレントゲン撮影装置であるマンモグラフィーを更新してこの 3 日から検診を再開している。マンモ検診は医師が必要と認めた場合に限っていたが、この装置を機会に受診者全員へと拡大し、画像判定は医師二人のダブルチェックになる。4、5 倍の発見率が期待されるようだ。

新設したこの製品の価格は税込みで 1722 万円で購入、国の緊急整備事業（2 分の 1 補助）を導入して実施している。

一人でも早期発見のために検診をおすすめしたい。

会社登記簿謄本は、間接的に私から渡ったものです 2005/10/4（火）



「議員が能代球場電光掲示板の工事・入札をめぐって執拗に市職員に質疑を繰り返した

ことは公正な行政執行を妨害し、特定企業に有利な取り計らいをしたことは条例に違反する」として市民から審査請求があったが、審査会の調査の内容からそれを実証するものがないかぎり「疑わしい判断」を主張するだけでは措置勧告はできない。

質問攻めにあった。「共産党能代市議会議員を宣伝するために能代市政治倫理審査会を開いたのですか？ 請求人が審査会の委員で審査をしたのですか」

あなたの質問で言われる前から、最後はやっぱりここで広報活動に利用されるだろうなとは、わたしも思っていました。ただ、同席して記者会見をしている市議が請求人になっていたかどうかは確認をしていませんでした。

市議会議員政治倫理条例に基づき、市議会議員3人と不受理になった1人1件について、審査請求した請求代表者の元市議相場洋子さんと日本共産党小林秀彦市議たちが同席して記者会見している様子が、10/1、北羽新報に掲載されていた。

小林秀彦市議は審査会委員である。「請求人が、審査をしたのか？」と、言われると公開すべきであった請求人の名簿は請求者の要請があつて審査会には公開していないところにも、問題があつただろうことは否定できない。

ところで相場氏は記者会見で「審査会は何も調査せず、市民から提出された書類のみで審査し、不十分だと言う理由で勧告を行わないと無罪放免したことは納得できない」などと述べている。

市民から審査請求を出されたと知って、私は審査会の委員である責任で審査するために自ら法務局に出向き、最初の能代市議会政治倫理条例ができる平成9年にさかのぼる当該議員が関係する4会社の登記簿謄本を、1万数千円を払って取り寄せして確認した。

第 回政治倫理審査会で私は、疑義を持たれて審査請求された議員に關係する会社の登記簿謄本の提出を求めると同様、請求人を代表する相場氏からも「証拠に足りる資料」の提出を求めたのである。

本来審査請求する請求人が「証拠に足りる資料」として疑義ある議員が關係する会社の登記簿謄本を添付することは基本の基ではなかったか。

それぐらいは相場氏だからこそ知っているとは思っていたが、その後請求人を代表する相場氏から、第 回政治倫理審査会に提出してきた当該議員が關係する会社の登記簿謄本は、間接的に私からある方を通して相場氏に渡ったものである。

政治倫理審査会は、請求人から出された書類のみでなく、あらゆる手を尽くして関係機関に「証拠に足りる資料の提出」を求め十分調査している。それは、記者会見に同席した小林秀彦議員がいちばんよく分かっていることではないか。小林、柳谷氏らは自らあれが欲しい、これが欲しいと「証拠に足りる資料」を要求したが、対する疑義追求調査のための質疑さえできなかったではないか。

「先回、要求されていた資料が提出されました。これに対する質疑、ご意見等ございませんか」「……ありません」と。

消防組織の統合広域化について 2005/10/3（月）

能代市議会全員協議会は、消防組織の統合広域化について市当局と意見交換した。消防広域化に絡む市町村合併後の能代山本市町村圏組合議会の議員定数は、定数の「配分」は負担・人口割合を考慮した傾斜配分とし、能代市の合併相手である二ツ井町と調整することとしながらも、「16人」とする方向で合意した。

紆余曲折ようやくここまで辿り着いたが、現在の消防3組織間の職員の給料、職名、階級の待遇がそれぞれ違うところに質疑は集中した。消防組織の統合広域化には、職員の不公平感・不満を生じさせない調整や一本化を求める意見が相次いだ。給料、職名、階級の平準化が必要だと意見が上がった。

事務方は、昇給ルールの違いについて、格差の是正の手法など具体的調整に入っていないとし、給料を下げることは基本的に困難で、人事院勧告を先取りすることはできないと述べた。数年かを掛けて平準化するという考え方でいるが、統合時18年3月1日までの統一化は、調整が難航することを覚悟しているとも述べ、時間的に余裕がないことを言う。

私は、何かしらすっきりしない説明に消防組織の統合広域化は「時期尚早」ではないかと考え始めた。

能代山本市町村圏組合議会の代表理事は豊沢市長であり、能代地区消防議会の豊沢管理者である。手胡坐かいて「事務方」の説明に聞き入っている。「事務方」と、「議会」に丸投げしている状態だ。



この夏から毎日覗いてみる楽しみがあった野葡萄の果実の色は、淡緑色、淡いピンク色、淡い青色があるかとおもえば藍色があり、濃淡の紫など様々に変わる。

国勢調査の限界 2005/10/2（日）

市職員が国勢調査調査員となって調査票の回収にきた。対面調査方式である。個人情報保護法がちらりと頭の中をかすったが、密閉しないで渡した。

9月1日現在、能代市の人口は51,534人、19,434世帯数だった。世帯人数などの項目は

総務省が公表する「人口」の集計に使うようだが、「なぜここまで聴かれるのだろうか」と、学歴や勤め先の名称や家計の収入の種類、居住床面積や建て方など答えたくない質問事項もあった。

何故か。この調査が生活にかかわる政策につながっているか理解している国民はどれほど要るだろうか。例えば、居住床面積や建て方の質問についてであるが、都市整備や防災で重要性があるといっても、国勢調査を防災対策に役立たせている自治体はないと思うからだ。

社会情勢の変化、プライバシー意識の高揚を踏まえ、どんな調査方法がいいのか、信頼を高めるための改善すべきところに来ているのではないか。

ところで、個人情報に詰まったこれらの調査票は、一体、どう処分されるのだろうか。総務省に訊いてみたい。

現・能代市最後の「誕生日」 2005/10/1（土）

能代市は昭和 15 年 10 月 1 日に市制を施行。その市制施行 65 周年記念に、それぞれの分野で功績があり、市勢発展に対する貢献をたたえ、特別表彰 3 人を含む功労者など 71 人 2 団体の表彰式が行われた。

来年 3 月 21 日の二ツ井町との合併を控え、現・能代市としては最後の表彰式となった。それにしても、現・能代市最後の「誕生日」に、出席している能代市議会議員は一人、ふたり、3 人、4 人……数えるにはあまりにも少なかった。

